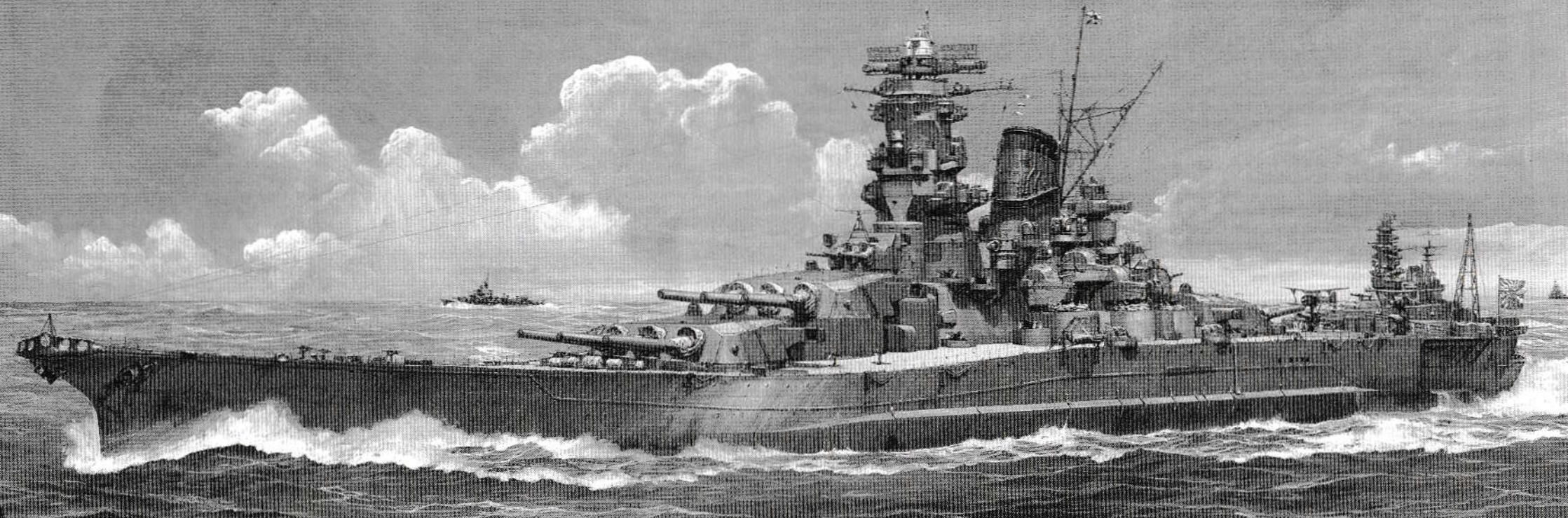


1:350 武 JAPANESE BATTLESHIP 蔵 MUSASHI



武蔵 MUSASHI

《主要目》	排水量(満載)→72,809t	乾舷(中央)→8,667m	蒸気温度→摂氏325度
全長→263m	排水量(公試)→69,594t	乗員数→2,500人	機銃→25mm単装26挺
水線長→256m	排水量(基準)→65,000t		機銃→13mm連装2基
最大幅→38.9m	重油消費量→6,300t		飛行機(水偵)→7機
吃水線幅→36.9m	航続力→7,200海里/16kt		射撃機→2基
深さ→18,915m	最高速力→27.3kt		電波探信機→21号型2基
吃水(公試)→10.4m	軸馬力→150,000hp		電波探信機→22号型2基
			電波探信機→13号型2基

《主要兵器》	主砲→45口径46cm3連装3基	副砲→15.5cm3連装2基	高角砲→12.7cm連装6基	機銃→25mm3連装35基
《推進機関》	主機関→タービン4基	缶数→12缶	蒸気圧力→25kg/cm ²	

建造開始まで

大正6年(1917年)、第1次大戦のさなかのことでしたが、日本海軍は「八八艦隊」と名づけられた強力な艦隊の建設に着手しました。この計画は、長門、陸奥、加賀、土佐、紀伊、尾張など8隻の新型巡洋艦を中心とした世界最強の艦隊を作り上げようというものでした。この16隻の戦艦、巡洋戦艦は、どれも当時としては画期的なもので、特にまだ名前が決まっていなかった4隻は、常備排水量4万7500トン、46cm砲8門を主砲とする巨艦となる予定でした。日清、日露の戦いを勝ち抜いて一流海軍国の仲間入りをはたした日本は、さらにイギリス、アメリカと肩をならべるために、いっそうの海軍力の充実を計画したのです。しかし大正10年(1921年)ワシントン軍縮条約が成立、主力艦の保有量が制限されると共に建造も10年間にわたって禁止されたため、長門と陸奥が完成、そして赤城と加賀が航空母艦に生まれ変わったものの、この雄大な計画は夢と終わってしまったのです。

ワシントン軍縮条約による主力艦の建造禁止期間はネーバル・ホリディと呼ばれますが、このネーバル・ホリディが終わりに近づいた昭和4年から5年にかけて、金剛型にかわる3万5000トン級戦艦の建造が計画されました。しかし昭和5年、ロンドン軍縮条約が成立、ネーバル・ホリディは昭和11年(1936年)末まで延長されたため、この計画も実現しませんでした。昭和9年10月、ネーバル・ホリディの終わりを2年後にひかえて、日本海軍は新型戦艦の計画に着手しました。この時、軍令部から出された要求は、主砲に46cm砲8門、副砲に15.5cm砲3連装4基または20cm連装4基、速力30ノット以上、防禦力は2万から3万5000mの距離で主砲と同じ46cm砲の中弾に耐えられること、航続距離は18ノットで8000カイリという、まさに超戦艦というべきものでした。日本の経済力や工業力からみて、保有量がアメリカと対抗するのは難しく、劣勢を個々の艦の威力を高めることで補うほかなかったからでした。また、海軍の主役は戦艦という、大艦巨砲主義の絶頂期でもあったのです。この新戦艦の計画は、福田啓二造船大佐を設計主務者として作業が進められ、昭和10年3月にはA140とよばれる原案ができ上がりました。この案は公試排水量69500トン、水線長294m、速力31ノット、46cm砲3連装3基というもので、大和型の各原案中、最大最速でした。そして主砲は9門とも前甲板に集中しているのも特色でした。この原案に続いて、排水量、寸法、速力、主砲配置などがこなる20種類以上の案が作られ、比較検討の結果、公試排水量6万5200トン、水線長253m、速力27ノット、主砲には46cm砲3連装3基というA140F5案に落ち着きました。この時期は、昭和11年7月あるいは昭和10年10月頃と言われています。しかしこのA140F5案も最終案とはなりません。それは主機に予定していたディーゼルエンジ

ンが不調で、実用に適さないと判断されたことによるものでした。このため、主機は予定されてきたディーゼルとタービンの併用からタービンだけに改められることになり、公試排水量は6万8200トン、水線長は256mとなつて、これが最終案となりました。3基の砲塔は前部に2基、後部に1基というオーソドックスな配置をとっていましたが、副砲は砲室をやめ、上部構造物の前後に各1基、中央部左右に各1基ずつ配置したのが、それまでの日本戦艦にない特徴でした。バルバスバウ(球状船首)の採用も、日本戦艦としては新しい試みでした。また艦首から大きなシアーをつけ、前甲板が一番砲塔あたりで最も低くなり、その後方から再び高くなっている艦の前半のラインも、他に例のないものでした。前橋は塔形の新式のもので、前々々積も側面々積も長門型にくらべると少なく、全体的にコンパクトになっていました。さらに後方へ傾斜した煙突や後部マストも戦艦としては例がなく、大和、武蔵の大きな特色となっていました。武蔵の写真や図面を見ると、砲塔や艦首、煙突などが艦の中央部に集中しているのが目立ちますが、これは主要部をできるだけ集中させ、そこに十分な装甲を施して防禦力を高める集中防禦方式を採用したためで、これもそれまでの日本艦にはない特色でした。また排水量の割には全長が短く、幅が広い艦形も、この新戦艦の大きな特徴でした。

厳重な機密保持

新戦艦は、一番艦(仮称一号艦、後の大和)が呉海軍工廠、二番艦(仮称二号艦、後の武蔵)が三菱長崎造船所で建造されることになり、昭和12年1月、三菱に内示されました。日本海軍の秘密区分は、軍機、軍極秘、秘、部内限の4段階になっており、通常、新戦艦の建造は軍極秘かついでした。しかし、この新戦艦の場合は、最高の軍機かついでした。このため機密保持対策は厳重をきわめ、工事関係者の身元が徹底的に調査されたのはもちろん、工事場への出入りもきびしくチェックされ、たとえ将官であっても工事に関係のないものは出入りできなかったと言われます。さらに外部の目からその存在をかくすために、建造現場となった第2船台周囲に高さ6mのトタン板のべいが作られ、その上部のガントリークレーンのまわりにはシュロ縄のスタレがはりめぐらされました。その最も高いところはガントリークレーンの上からでも約4m、地上からでは約60mもあったと言われます。15m×10mのスタレが建造中の武蔵の姿をかくすために数百枚も使われることになり、このため、一時は九州からシュロ縄が姿を消し、漁業関係者をあわてさせることにもなりました。船台の対岸にあるソビエト領事館の前に倉庫を建てて目かくしをしたことは有名ですが、このほかにも住宅を買取したり、監視所を作るなど、万全の対策が行われたのです。空前の巨艦にもかかわらず、武蔵の建

造はスムーズに進み、進水重量は実に3万5600トンにも達し、これは戦艦陸奥の公試水量に匹敵するものでした。もちろん、これだけの巨艦の進水は日本で初めてのことであり(大和はドックでの進水)、外国でもクイーン・メリーの3万7300トンという例があるだけでした。このため、多くの問題が予想されたものの、昭和15年11月1日午前8時55分、武蔵は長崎港内にその巨体を無事に浮かべることができました。この時、船台附近の海面水位は30cm以上も上昇し、120cm以上の高波がおき、対岸の浪の平では高波による浸水被害がおきたと言われています。進水後、武蔵は艦装対岸へつながら、ここでも、機密保持のために、目かくしとして艦装中の春日丸(後の空母大鷹)が、すぐ横に係留されることになりました。

大和との違い

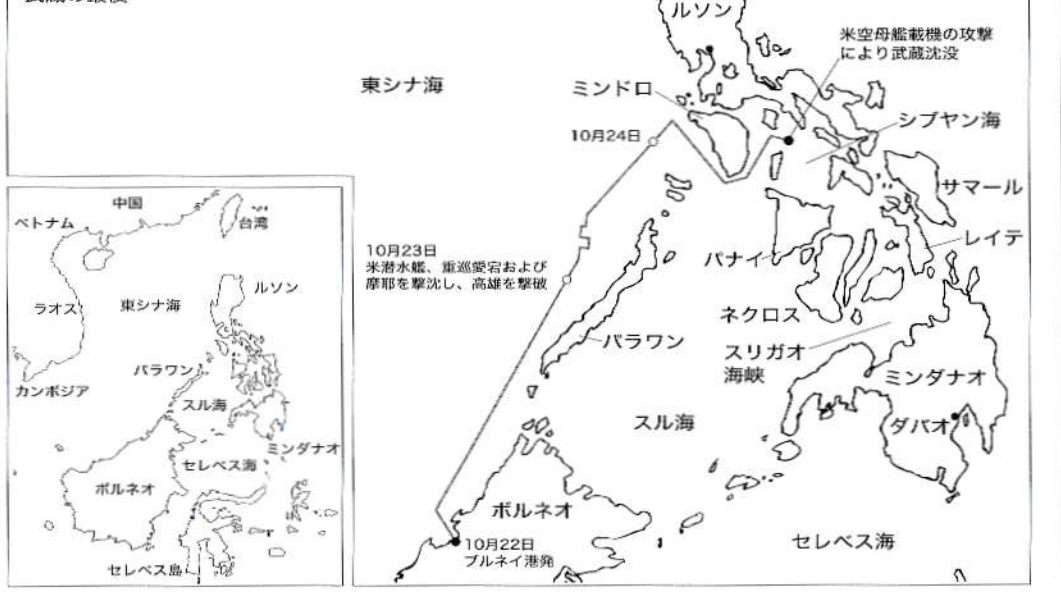
こうして極秘のうちに建造が進められた武蔵は、大和より8ヶ月おくれで、昭和17年8月5日に竣工しました。基本的には大和と同じでしたが、司令部施設の増設、艦橋作戦室や信号指揮所、信号所、通信指揮室の改良が行われており、大和では昭和18年に行われた副砲塔の防禦強化や25mm3連装機銃4基の追加も行われていました。従って武蔵の竣工時の対空兵装は、12.7cm高角砲連装6基、25mm3連装機銃12基、13mm連装機銃2基でしたが、昭和19年4月に機銃が増強され、25mm3連装機銃30基、25mm単装機銃25基、13mm連装

機銃2基となりました。そしてマリアナ沖海戦後、さらに対空兵装強化が行われ、昭和19年10月には25mm機銃が3連装35基、単装26基、13mm機銃が連装2基となりました。なお昭和19年4月の改装の際に大和と同じく両面の副砲が撤去されました。ここには高角砲が増強される予定でしたが、これは最後まで行われませんでした。また改造された高角砲座に6基の25mm3連装機銃が増設されたとも言われています。電探の装備は大和より早く、昭和17年9月に21号電探1基を装備、18年7月には22号電探が2基、19年4月には13号電探2基が追加されました。

武蔵の戦い

連合艦隊に加わった武蔵は、昭和18年2月11日から翌年3月31日まで、連合艦隊旗艦をつとめました。この間、19年3月29日、アメリカ潜水艦の雷撃を受け、魚雷1本が命中しましたが、航行に支障はなく、不沈戦艦ぶりを発揮しました。その後、マリワナ海域戦に参加、続いてフィリピン沖海戦に参加した武蔵は、昭和19年10月、栗田中将の第1遊撃部隊の主力としてレイテへ向かいました。しかし、24日、シブヤン海でアメリカ艦上機の攻撃を受け、その巨体を海中に没したのです。この日、武蔵を襲ったアメリカ機の数、約140機にもなり、このうち30機以上を撃墜しましたが、実には17発の爆弾、20発の魚雷が命中したほか、18発の至近弾を受けての最後でした。

武蔵の最後



JAPANESE BATTLESHIP MUSASHI 武蔵

《Particulars》
Overall length: 263m
Waterline length: 256m
Beam: 38.9m
Depth: 18.915m
Draft (official trial): 10.4m
Displacement (loaded): 72,809t
Displacement (official trial): 69,594t

Displacement (standard): 65,000t
Heavy oil carried: 6,300t
Cruising range: 7,200nm/16kt
Top speed: 27.3kt
Shaft horsepower: 150,000hp
Freeboard (center): 8.667m
Number of crew: 2,500

《Engine》
Main machinery: 4 turbines
Number of boilers: 12
Steam pressure: 25kg/cm²
Steam temperature: 325°C
《Main Armament & Equipment》
Main guns: Three 46cm L/45

triple-barreled guns
Secondary guns: two 15.5cm triple-barreled guns
High angle guns: Six 12.7cm double-barreled guns
Machine guns: 35, 25mm triple-barreled guns
Machine guns: 26, 25mm single-barreled guns
Machine guns: 13mm double-barreled guns
Planes (scout seaplanes): 7
Catapults: 2

Radio detectors: Type 21, two
Radio detectors: Type 22, two
Radio detectors: Type 13, two
Detect scope: 1
Underwater detector: 1
Searchlights: 150cm diameter, six
Sunk: October 24, 1944

In 1917 the Japanese Navy began planning modernization of their aging fleet with a line of powerful new warships called the "Eight-Eight" squadron. This was to comprise eight new battleships including Nagato, Mutsu, Kaga, Tosa, Kii and Owari, and eight new battle cruisers including Amagi, Akagi, Takao and Atago. In addition to these 16 capital ships, 4 huge leviathans armed with 46cm guns and displacement of 47,500 tons each were to be built. However, the Treaty of Washington signed by Japan in 1921 limited the possession of capital ships and prohibited the building of new ships for 10 years. Although Nagato and Mutsu were completed during this period and Akagi and Kaga were converted into aircraft carriers, the grand "Eight-Eight" plan was never realized. In 1929-30 just when the restrictions were coming to an end, the Treaty of London was signed, imposing similar restrictions on signatory nations as far as ship building was concerned. In October 1934, under tight security, the Japanese Navy began plans for a super battleship, and 22 months later a proposal called A140-F5 was adopted. After several modifications, final plans were adopted for a 68,200 ton dreadnought in March 1937. Construction began on what would become the famous battleship Yamato in the Kure Naval Yard in November 1937.

In violation of the London and Washington Treaties, and in the greatest secrecy, the Japanese Navy began construction of a 2nd Super Battleship named "Musashi" on March 29, 1938 at the Nagasaki Naval Shipyards. A curtain of sisal mats 2.7km long was built around Musashi's slipway during construction to keep it secret from the public. Musashi's launching was camouflaged with equal care, with police units sealing off the opposite side of Nagasaki city, allowing the ship to be launched in secrecy and without any ceremony early in the morning of November 1, 1940. Being the sister ship of Yamato, Musashi's most distinguishing features were her 9 huge 46cm guns, the largest ever carried aboard a ship. Housed in 3 turrets of 3 guns each, they had a range of 41,000m and could penetrate 43cm of armor plating at a distance of up to 30,000m. One armor piercing projectile for these type 94 guns weighed 1.4 tons, and the turrets that housed the guns weighed 2,265 tons each. In addition to her main guns, Musashi carried 12 each of 15.5cm and 12.7cm guns, as well as 131 25mm AA guns. Displacement at full load was 71,659 tons and she was powered by 4 steam turbine engines with an output of 150,000hp and a top speed of 27.3 knots. Musashi was commissioned for service on August 5, 1942, and she headed for Truk Lagoon to assume duties as flagship of the Japanese fleet. During combat operations North-West of the island of Palau on March 29, 1944, Musashi was torpedoed by the U.S. submarine "Tunny" and suffered major damage. During Operations South of Luzon, Philippines on October 24, 1944, Musashi was attacked by several U.S. planes from four aircraft carriers, and sustained 20 aerial torpedo and 17 bomb hits, plus 16 damaging near misses. Four and a half hours after this last attack, the proud Musashi sank, almost to be forgotten in later years, while her sister ship Yamato went on to be known as the largest battleship ever seen.

Im Jahre 1917 begann die Japanische Marine die Planung der Modernisierung ihrer alternden Flotte mit einer Baureihe von mächtigen, neuen Kriegsschiffen unter dem Namen "Acht-Acht" Schwadron. Diese sollte acht neue Schlachtschiffe umfassen, darunter Nagato, Mutsu, Kaga, Tosa, Kii und Owari und acht neue Schlachtkreuzer mit Amagi, Akagi, Takao und Atago. Zusätzlich zu diesen 16 Groß-Schiffen sollten 4 Riesenschiffe bewaffnet mit 46cm Kanonen und einer Verdrängung von je 47.500 Tonnen gebaut werden. Das Abkommen von Washington jedoch, das Japan 1921 unterzeichnet hatte, beschränkte den Besitz von Groß-Schiffen und verbot 10 Jahre lang den Bau von neuen Schiffen. Obwohl Nagato und Mutsu während dieser Periode fertig gestellt und Akagi sowie Kaga in Flugzeugträger umgewandelt wurden, wurde der großartige "Acht-Acht" Plan niemals verwirklicht. Zwischen 1929 bis 1930, gerade als die Beschränkungen zu Ende waren, wurde das Abkommen von London unterzeichnet, welches den unterzeichnenden Nationen in Bezug auf den Schiffsbau ähnliche Beschränkungen auferlegte. Im Oktober 1934 begann die Japanische Marine unter strengster Geheimhaltung mit der Planung von Super-Schlachtschiffen und 22 Monate später wurde ein Vorschlag unter der Bezeichnung A140-F5 angenommen. Nach etlichen Veränderungen wurden im März 1937 die endgültigen Pläne für ein 68.200 Tonnen Schlachtschiff angenommen. Im November 1937 begann im Kure Marinehof die Konstruktion dessen, was später das berühmte Schlachtschiff Yamato werden sollte.

Unter Verletzung der Abkommen von London und Washington und unter höchster Geheimhaltung begann die Japanische Marine am 29. März 1938 auf der Nagasaki Marine-Schiffswerft die Entwicklung eines 2. Super-Schlachtschiffs mit dem Namen "Musashi". Ein 2,7km langer Vorhang aus Sisal-Matten wurde während des Baus rund um die Helling der Musashi errichtet, um sie vor der Öffentlichkeit geheim zu halten. Der Stapellauf der Musashi war mit gleicher Sorgfalt getarnt, wobei Polizeieinheiten die gegenüber liegende Seite von Nagasaki-Stadt was den Stapellauf des Schiffs unter Geheimhaltung und ohne jegliche Zeremonie am frühen Morgen des 1. November 1940 ermöglichte. Als Schwesterschiff der Yamato waren ihr hervorstechendstes Merkmal die 9 riesigen 46cm Kanonen, die größten welche jemals ein Schiff an Bord mitführte. Eingebaut in drei Türme zu je 3 Kanonen hatten sie eine Reichweite von 41.000m und konnten 43cm Panzerplatten auf eine Entfernung bis zu 30.000m durchschlagen. Eine der panzerbrechenden Granaten dieser Kanonen vom Typ 94 wog 1,4 Tonnen und die Türme, welche die Kanonen aufnahmen, wogen je 2.265 Tonnen. Zusätzlich zu ihren Hauptkanonen trug die Musashi je 12 von 15,5cm und 12,7cm wie ferner 131 25mm Luftabwehr-Kanonen. Voll beladen betrug die Verdrängung 71.659 Tonnen und sie wurde von vier Dampfturbinen mit einer Leistung von 150.000PS bei einer Spitzengeschwindigkeit von 27,3 Knoten angetrieben. Die Musashi wurde am 5. August 1942 in Dienst gestellt und sie nahm Kurs auf die Truk-Lagune um ihre Aufgabe als Flaggschiff der japanischen Marine anzunehmen. Währ-

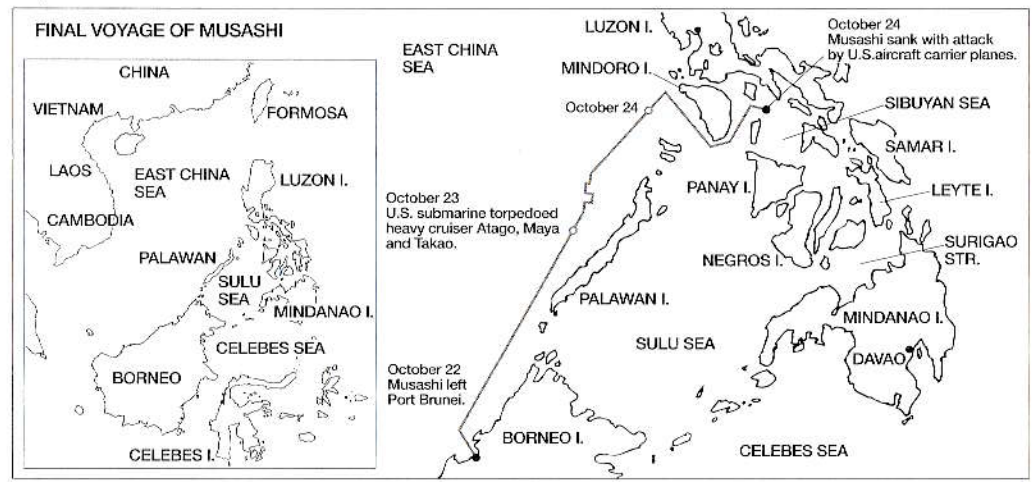
end Kampfhandlungen nordwestlich der Insel von Palau am 29. März 1944 wurde die Musashi vom US-U-Boot "Tunny" torpediert und erhielt größere Beschädigungen. Bei Operationen südlich von Luzon auf den Philippinen am 24. Oktober 1944 wurde die Musashi von etlichen US-Flugzeugen von vier Flugzeugträgern angegriffen und erhielt 20 Lufttorpedos- und 17 Bombentreffer, dazu 16 Schaden verursachende, knappe Fehlschüsse. Viereinhalb Stunden nach diesem letzten Angriff sank die stolze Musashi und geriet in späteren Jahren fast in Vergessenheit, während ihr Schwesterschiff Yamato weiterhin als das größte je gesehene Schlachtschiff bekannt ist.

En 1917, la Marine Japonaise commença la modernisation de sa flotte vieillissante avec une série de puissants nouveaux navires désignée Escadre "Huit-Huit". Elle devait comprendre huit nouveaux cuirassés incluant les Nagato, Mutsu, Kaga, Tosa, Kii et Owari, et huit nouveaux croiseurs de batailles dont les Amagi, Akagi, Takao et Atago. En plus de ces seize navires, quatre monstres de 47.500 tonnes chacun armés de canons de 46cm devaient être construits. Cependant, le Traité de Washington signé par le Japon en 1921 limitait la possession de navires importants et interdisait la construction de nouveaux bâtiments pour 10 ans. Bien que le Nagato et le Mutsu furent terminés durant cette période et que l'Akagi et le Kaga soient convertis en porte-avions, l'ambitieux plan "Huit-Huit" ne fut jamais réalisé. En 1929-30, à l'approche de la levée des restrictions, le Traité de Londres fut signé, imposant des limitations identiques aux nations signataires en matière de construction navale militaire. En octobre 1934, la Marine Japonaise commença l'étude secrète d'un super cuirassé et 22 mois plus tard, un projet désigné A140-F5 fut adopté. Après plusieurs modifications, les plans définitifs d'un cuirassé de 68.200 tonnes furent émis. La construction de celui qui allait devenir le célèbre cuirassé Yamato débuta dans

l'arsenal de Kure en novembre 1937.

En violation des traités de Londres et Washington, et dans le plus grand secret, la Marine Japonaise lança la construction d'un deuxième super cuirassé nommé "Musashi" le 29 mars 1938 à l'arsenal de Nagasaki. Durant sa construction, une palissade de matelas de sisal de 2,7km de long fut édifée autour de la rampe de lancement du Musashi pour le tenir caché des regards. La mise à l'eau fut camouflée avec le même soin, des forces de police interdisant l'accès à l'autre côté de la ville de Nagasaki. Le Musashi fut lancé sans cérémonie au matin du 1er novembre 1940. Sister-ship du Yamato, Le Musashi était équipé de 9 canons de 46cm, les plus gros jamais portés par un navire. Installés dans trois tourelles triples, ils avaient une portée de 41.000m et les obus pouvaient traverser un blindage de 43cm d'épaisseur à une distance de 30.000m. Un seul obus perforant de ces canons type 94 pesait 1,4 tonnes et les tourelles pesaient 2.265 tonnes chacune. En complément, le Musashi emportait 12 canons de 15,5cm et 12 de 12,7cm ainsi que 131 canons anti-aériens de 25mm. La jauge à pleine charge était de 71.659 tonnes et la propulsion était assurée par quatre turbines à vapeur développant 150.000 chevaux, permettant d'atteindre 27,3 nœuds.

Le Musashi entra en service le 5 août 1942 et mit le cap vers le Lagon de Truk pour y prendre le commandement de la flotte japonaise. Lors de combats au nord-ouest de l'île de Palau le 29 mars 1944, Le Musashi fut torpillé par le sous-marin américain "Tunny" et gravement endommagé. Lors de combats au sud de Luzon, Philippines le 24 octobre 1944, le Musashi fut attaqué par des avions américains lancés depuis quatre porte-avions et touché par 20 torpilles aériennes et 17 bombes plus 16 coups rapprochés. Quatre heures et demie après cette attaque, le fier Musashi sombra presque oublié alors que son sistership, le Yamato resta lui dans les mémoires comme le plus grand cuirassé jamais construit.



PAINTING

《武蔵の塗装》

日本の軍艦の塗装には戦時塗色と言われる少し青味がかった濃い灰色を使っていた。これは1903年、日露戦争をひかえてこの塗装が採用されて以来、大戦終結までそのままでした。武蔵もその例にもれずこの塗装が使われました。吃水線以下の艦底はマルーンと呼ばれる暗い赤色です。甲板は鉄板張り、板張りが使われ鉄板張りは艦体と同色、板張りは塗装されていません。煙突の頂部は黒、後部マストは上方へは煙突の頂部と同じ高さから9m、下方へは煙突の黒色部分の下端までと同じ幅で黒く塗装していました。菊の御紋章は金色、砲身基部の防水カバーは明るい灰色でした。

Painting the Japanese Battleship Musashi

Japanese warships were painted in a standard blue-tinted dark gray color scheme from 1903, just before the Russo-Japanese War, until the end of WWII. The Musashi featured a gray upper hull with a maroon lower hull below the water line. The deck was covered with iron plating

or boarding, with the former colored gray like the hull, and the latter unpainted. The top of the ship's funnel was black, as was the portion of the mast measuring from the lower border of the black part of the funnel, to a point 9m above the funnel top. The Imperial chrysanthemum crest was golden, and the waterproof covers at the base of the gun barrels were light gray.

Lackierung des Japanischen Schlachtschiffs Musashi

Japanische Kriegsschiffe waren standardmäßig in einem leicht bläulichen Dunkelgrau-Farbtönen lackiert und zwar ab 1903, unmittelbar vor dem Russisch-Japanischen Krieg bis zum Ende des Zweiten Weltkriegs. Die Musashi besaß ein graues Rumpf-Oberteil und ein kastanienbraunes Unterteil unterhalb der Wasserlinie. Das Deck war mit eisernen Panzerplatten oder Holzbohlen gedeckt, wobei erstere wie der Rumpf grau gefärbt waren und letztere unlackiert blieben. Der obere Abschluss des Schiffs-Schornsteins war schwarz, ebenso der obere Bereich des Mastes und zwar ab der unteren Grenze des schwarzen Teils des Schornsteins bis zu einem Punkt 9m oberhalb der Schornstein-Spitze. Das Kaiserliche Chrysanthemum-Wappen war golden und die wasserdichten Abdeckun-

gen an der Basis der Kanonenrohre waren hellgrau.

Peinture du Cuirassé Japonais Musashi

De 1903 - juste avant la Guerre Russo-Japonaise, jusqu'à la fin de la 2^{de} G.M., les navires de combat japonais étaient peints dans une couleur standard gris foncé bleuâtre. La coque supérieure du Musashi était grise tandis que la partie inférieure sous la ligne de flottaison était marron. Le pont était couvert de plaques d'acier peintes en gris comme la coque et de lattages, laissés nus. Le sommet de la cheminée était noir, tout comme la partie du mât située en arrière de la cheminée, entre la limite inférieure du noir sur la cheminée et un point situé à 9 mètres au dessus du sommet de la cheminée. Le blason du Chrysanthème Impérial était doré et les joints étanches à la base des fûts des canons étaient joints clairs.

《使用する塗料》TAMIYA PAINT COLORS

TS-33 ●ダレルレッド / Dull red / Mattrot / Rouge mat

TS-66 ●呉海軍工廠グレイ (日本海軍) / JN Gray (Kure Arsenal) / JN Grau (Kure Arsenal) / Gris Marine Japonaise (arsenal de Kure)

PAINTING TIPS

《塗装する前に》

各製品の塗装する面のゴミやほこり、油などを柔らかい布で拭き取ってください。中性洗剤で1度洗っておくのもよいでしょう。接着剤のはみ出しやキズは塗装では隠せません。カッターナイフや目の細かな紙ヤスリで修正します。また、パーティングライン (部品にのこる成型行程上の合わせ目) もヤスリをかけ修正塗装します。

《塗装用具について》

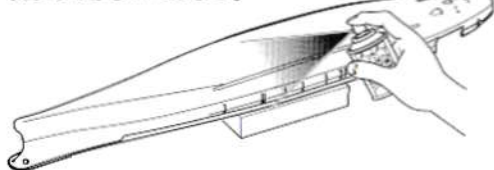
タミヤモデリングブラシ、とき皿、ウエス (ポロ布) をご用意ください。タミヤでは各種モデリングブラシをとりそろえてあります。筆塗りする場所や用途に合わせてご用意ください。



塗装し終わった筆はウエスでよく塗料をぬぐい取り、溶剤 (エナメル用とアクリル用がありますので注意してください。) でよく塗料を洗い流し、水洗いしてから塗装します。

《スプレー塗装》

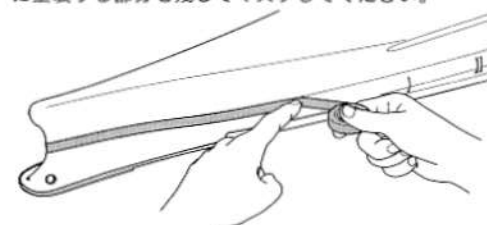
船体やブリッジなどの大きなパーツの塗装には、広い面積の塗装でもムラがでにくく美しい仕上がりが楽しめるスプレー塗料が便利です。また、同じ塗料色で仕上げるパーツはできるだけ組み立ててから塗装するのがよいでしょう。



★スプレー塗料は缶に印刷された注意をよく読んで正しく使用してください。また、火気のある場所での塗装は絶対にしないでください。

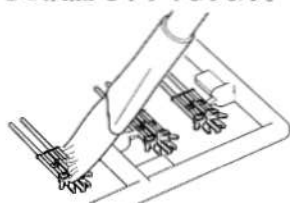


船底の塗り分けはマスキング塗装をします。ベースを呉海軍工廠グレイで塗装し、完全に乾かします。喫水線位置にマスキングテープを使ってダレルレッドに塗装する部分を残してマスキングしてください。



《小さなパーツの塗装》

小さなパーツの塗装には筆塗り塗料が最適です。パーツはランナーから切り取らずに、ランナーについてままで塗装すると作業がしやすくなります。



PRIOR TO PAINTING

★Remove all dust and oil from parts prior to painting. If necessary, wash with detergent, rinse off thoroughly and allow to air dry.

★Remove excess cement, fill in and clean up joints and seam lines. Smooth surface using a modeling knife and fine abrasive papers.

BRUSH PAINTING

★Brush painting is the most common method of adding color to models, especially for the fine detail. In addition to the basic paints and brushes, the following items come in handy when painting: exclusive paint thinner, an empty paint jar or small paint tray, and rags. After painting, wipe paint from brush with rags and clean brush with thinner.

★Allow adequate ventilation while painting.

SPRAY PAINTING

★For finishing large areas, the use of spray paints or an airbrush will provide an even finish. Use a cardboard box, newspapers, etc. to keep from painting other areas.

★Objects to be painted should be secured on a base, so that you have access to all areas. Use double-sided tape or spring clips for holding small parts.

★Do not paint near open flames or any other heat sources.

★Paint whole hull with JN gray (Kure Arsenal). After paint has dried, mask hull above waterline using masking tape (sold separately) and paint hull bottom with dull red.

VOR DER LACKIERUNG

★Vor der Lackierung alle Staub- und Ölrreste entfernen. Mit Spülmittel abwaschen, wenn nötig, gründlich spülen und an der Luft trocknen lassen.

★Überflüssigen Klebstoff entfernen, Modell abspachteln und Fugen verschließen. Oberflächen mit Modellermesser bearbeiten, abspachteln und schmirgeln.

BEMALUNG MIT PINSEL

★Die Bemalung mit einem Pinsel ist die üblichste Methode der Bemalung und besonders der kleinen Einzelheiten. Zusätzlich zu den Farben und Pinseln sind folgende Gegenstände für die Bemalung nützlich: speziell für Farben entwickelter Verdüner, ein leerer Farbtropf oder Farbpalette und ein Wischtuch. Nach dem Bemalen mit einem Tuch Farbe vom Pinsel wischen und Pinsel mit Verdüner reinigen.

★Sorgen Sie bei der Bemalung für ausreichende Belüftung.

TS-68 ●木甲板色 / Wooden deck tan / Holzdeck-Braun / Bois clair

X-2 ●ホワイト / White / Weiß / Blanc

X-5 ●グリーン / Green / Grün / Vert

X-7 ●レッド / Red / Rot / Rouge

X-10 ●ガンメタル / Gun metal / Metall-Gräu / Gris acier

X-11 ●クロムシルバー / Chrome silver / Chrom-Silber / Aluminium chromé

X-12 ●ゴールドリーフ / Gold leaf / Gold Glänzend / Doré

XF-1 ●フラットブラック / Flat black / Matt Schwarz / Noir mat

XF-2 ●フラットホワイト / Flat white / Matt Weiß / Blanc mat

XF-10 ●フラットブラウン / Flat brown / Matt Braun / Brun mat

XF-11 ●暗緑色 / J.N. green / Grün der Japanischen Marine / Vert Aéronavale Japonaise

XF-12 ●明灰白色 / J.N. grey / Grau der Japanischen Marine / Gris Aéronavale Japonaise

XF-25 ●ライトシーグレイ / Light sea grey / Helles Meergräu / Gris de mer clair

XF-53 ●ニュートラルグレイ / Neutral grey / Mittelgräu / Gris neutre

XF-56 ●メタリックグレイ / Metallic grey / Grau-Metallic / Gris métallisé

XF-63 ●ジャーマングレイ / German grey / Deutsches Gräu / Gris Panzer

SPRÜH-LACKIERUNG

★Bei der Lackierung von großen Flächen erreicht man mit Sprüh- oder Airbrush-Farben eine glatte Oberfläche. Es wird empfohlen, an einem klaren Tag mit geringer Luftfeuchtigkeit zu arbeiten. Sprüh-Farben, wenn möglich, draußen an einem schattigen und windstillen Platz verarbeiten. Karton, Zeitungen usw. verwenden, um nicht versehentlich andere Flächen mit einzufärben.

★Das zu bearbeitende Objekt auf einen Sockel stellen, so daß Sie von allen Seiten herankommen. Machen Sie z.B. Verwenden Sie die Doppelklebeband oder Federklammern um Kleinteile zu halten.

★Das Modell nicht in Nähe eines offenen Feuers lackieren. ★Den gesamten Rumpf mit JN Grau (Kure Arsenal) lackieren. Wenn die Farbe trocken ist, den Rumpf mit (getrennt erhältlich) Abklebeband abkleben und den Kiel mit Mattrot lackieren.

PREPARATION

★Enlever la poussière et la graisse de toutes les pièces avant être peintes. Si nécessaire, les nettoyer avec un détergent, rincer soigneusement et laisser sécher.

★Éliminer tout excès de colle, mastiquer et poncer les jointures et lignes de moulage (papier abrasif fin).

PEINTURE AU PINCEAU

★C'est la méthode la plus employée, en particulier pour les détails. En plus des peintures et pinceaux classiques, les accessoires suivants sont d'une grande utilité: diluant, pots de peinture vides ou palette et des chiffons. Après exécution, nettoyer le pinceau avec un chiffon et le rincer au diluant.

PEINTURE A LA BOMBE

★Pour peindre de grandes surface, les bombes aérosols ou l'aérographe sont indispensables pour assurer un fini parfait. Installer les pièces à peindre sur un carton, du journal... pour protéger les alentours.

★Les pièces doivent être fixées sur un support afin de pouvoir accéder à toute leur surface. Utiliser l'adhésif double face ou les clips pour maintenir en place des pièces plus petites.

★Ne pas opérer près d'une flamme.

★Peindre l'ensemble de la coque en gris Marine Japonaise (arsenal de Kure). Après séchage de la peinture, masquer la coque au dessus de la ligne de flottaison à l'aide de bande cache (disponible séparément) et peindre la quille en rouge mat.

組み立てる前にお読みください。READ BEFORE ASSEMBLY

注意 ●このキットは組み立てモデルです。作る前に必ず説明書を最後までお読みください。また小学生などの低年齢の方が組み立てる時は、保護者の方もお読みください。●工具(別売)の使用には十分注意してください。特にナイフやニッパーなどの刃物によるケガや事故に注意してください。●接着剤や塗料は必ずプラスチック用を使用し(別売)、使用する前にそれぞれの注意書きをよく読み、その指示に従ってください。またご使用の際は換気は十分に注意してください。●小さなお子様のいる所での作業はやめてください。小さな部品の飲み込みやビニール袋をかぶっての窒息などの危険な状況が考えられます。

CAUTION ●Read carefully and fully understand the instructions before commencing assembly. A supervising adult should also read the instructions if a child assembles the model. ●When assembling this kit, tools including knives are used. Extra care should be taken to avoid personal injury. ●Read and follow the instructions supplied with paint and/or cement, if used (not included in kit). Use plastic cement and paints only. ●Keep out of reach of small children. Children must not be allowed to put any parts in their mouths, or pull vinyl bag over their heads.

VORSICHT ●Bevor Sie mit dem Zusammenbau beginnen, sollten Sie alle Anweisungen gelesen und verstanden haben. Fall sein Kind das Modell zusammenbaut, sollte ein beaufsichtigender Erwachsener die Bauanleitung ebenfalls gelesen haben.

●Beim Zusammenbau dieses Bausatzes werden Werkzeuge einschließlich Messer verwendet. Zur Vermeidung von Verletzungen ist besondere Vorsicht angebracht. ●Wenn Sie Farben und/oder Kleber verwenden (nicht im Bausatz enthalten), beachten und befolgen Sie die dort beiliegenden Anweisungen. Nur Klebstoff und Farben für Plastik verwenden. ●Bausatz von kleinen Kindern fernhalten. Verhüten Sie, daß Kinder irgendwelche Bauteile in den Mund nehmen oder Plastiktüten über den Kopf ziehen.

PRECAUTIONS ●Bien lire et assimiler les instructions avant de commencer l'assemblage. La construction du modèle par un enfant doit s'effectuer sous la surveillance d'un adulte. ●L'assemblage de ce kit requiert de l'outillage, en particulier des couteaux de modélisme. Manier les outils avec précaution pour éviter toute blessure. ●Lire et suivre les instructions d'utilisation des peintures et ou de la colle, si utilisées (non incluses dans le kit). Utiliser uniquement une colle et des peintures spéciales pour le polystyrène. ●Garder hors de portée des enfants en bas âge. Ne pas laisser les enfants mettre en bouche ou sucer les pièces, ou passer un sachet vinyl sur la tête.

ASSEMBLY

RECOMMENDED TOOLS

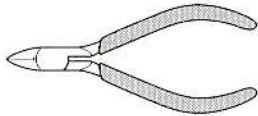
以下の工具をご用意ください。

Tools recommended
Benötigtes Werkzeug
Outillage nécessaire

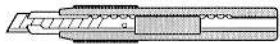
接着剤、流し込みタイプ(プラスチック用)
Cement / Extra thin cement
Kleber / Extra dünner Kleber
Colle / Colle extra-fluide



ニッパー
Side cutters
Seitenschneider
Pince coupante



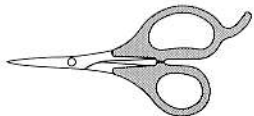
ナイフ
Modeling knife
Modellermesser
Couteau de modéliste



ピンセット
Tweezers
Pinzette
Précettes



デカールハサミ
Scissors
Schere
Ciseaux



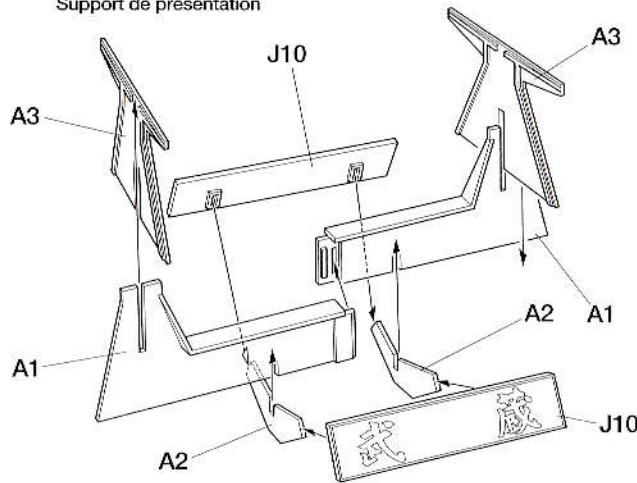
ピンバイス(ドリル刃2.5mm)
Pin vise (2.5mm drill bit)
Schraubstock (2.5mm Spiralbohrer)
Outil à percer (2,5mm de diamètre)



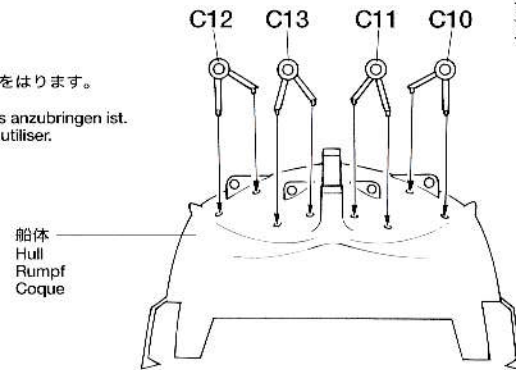
★その他にセロファンテープとマストの組み立て時にクリップが必要です。
★Cellophane tape and clip will also assist in construction.
★Auch Tesafilm und eine Klammer sind beim Zusammenbau hilfreich.
★Du ruban adhésif et des clips seront également utiles pour la construction.

1 ディスプレイスタンドの組み立て

Display stand
Ausstellungs-Ständer
Support de présentation

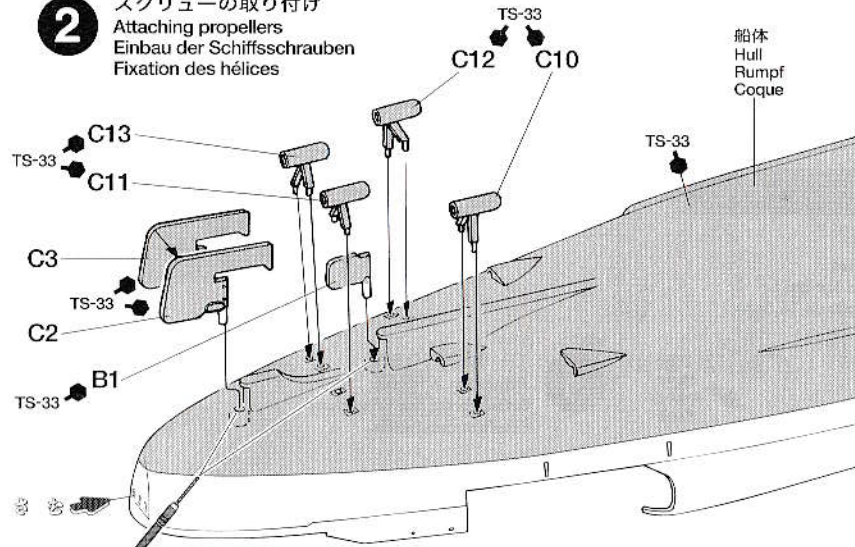


指示の番号のスライドマークをはります。
Number of decal to apply.
Nummer des Abziehbildes, das anzubringen ist.
Numéro de la décalcomanie à utiliser.

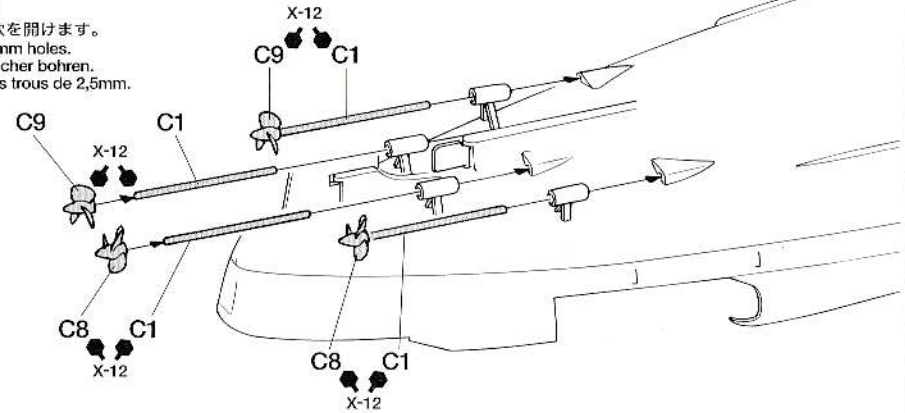


2 スクリューの取り付け

Attaching propellers
Einbau der Schiffsschrauben
Fixation des hélices

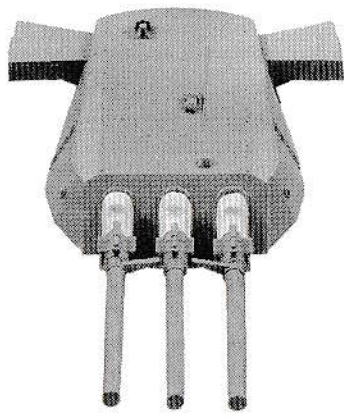


★2.5mmの穴を開けます。
★Make 2.5mm holes.
★2.5mm Löcher bohren.
★Percer des trous de 2,5mm.



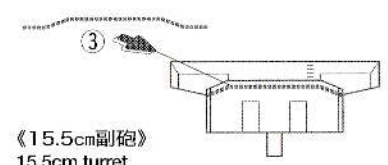
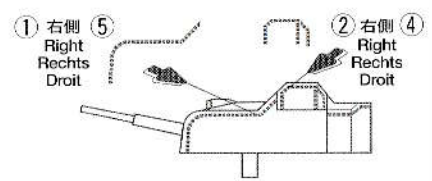
3

《46cm主砲》
46cm turret
46cm Turm
Tourelle de 46cm

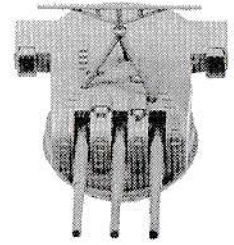


4

《副砲のマーキング》
Marking of 15.5cm turret
Verzierung des 15,5cm Turms
Marquages de la tourelle de 15,5cm



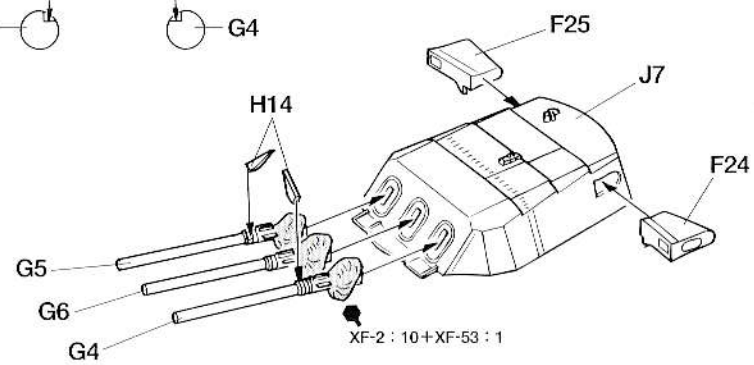
《15.5cm副砲》
15.5cm turret
15,5cm Turm
Tourelle de 15,5cm



3

46cm主砲の組み立て
46cm turrets
46cm Türme
Tourelles de 46cm

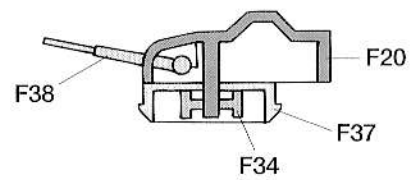
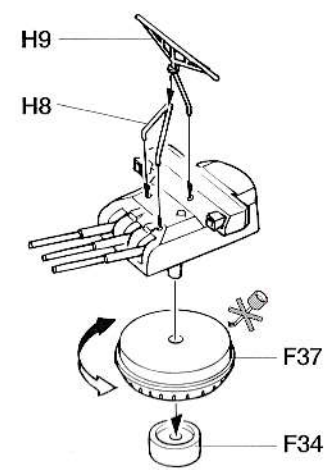
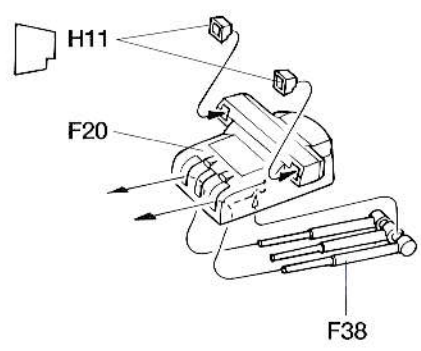
《46cm主砲》
46cm turret
46cm Turm
Tourelle de 46cm
★2個作ります。
★Make 2.
★2 Satz anfertigen.
★Faire 2 jeux.



4

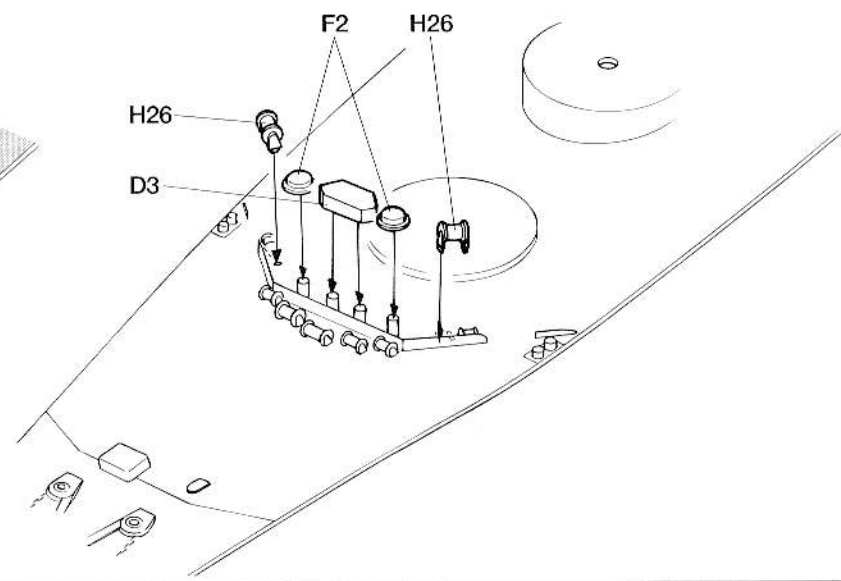
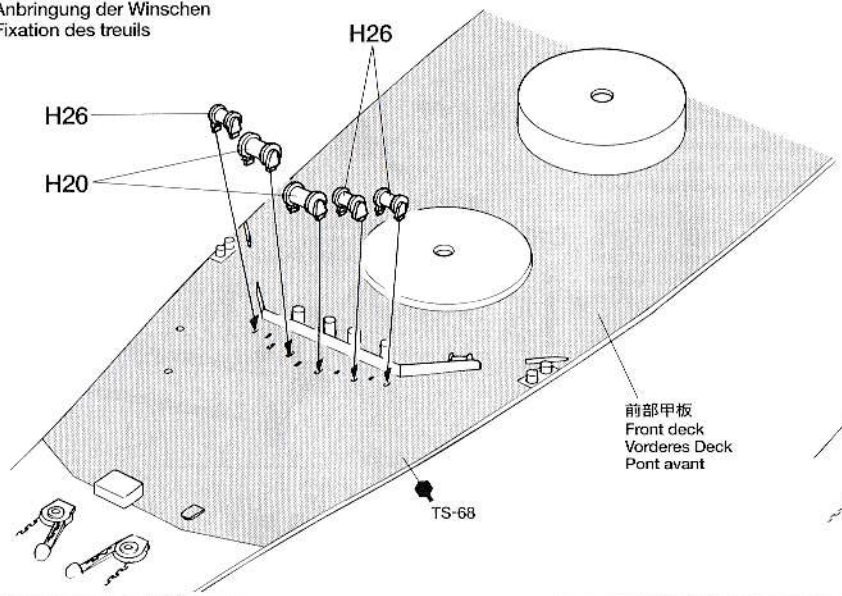
15.5cm副砲の組み立て
15.5cm turret
15,5cm Turm
Tourelle de 15,5cm

このマークの部品は接着しません。
Do not cement.
Nicht kleben.
Ne pas coller.



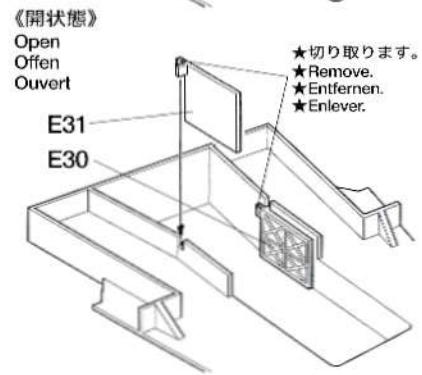
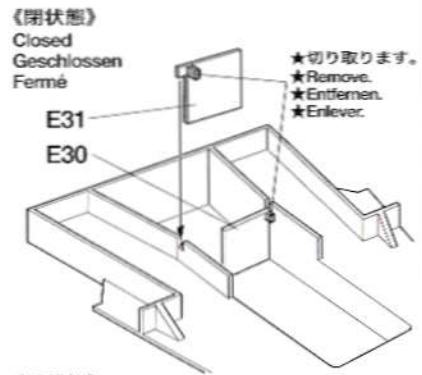
5

リールの取り付け
Attaching winches
Anbringung der Winschen
Fixation des treuils



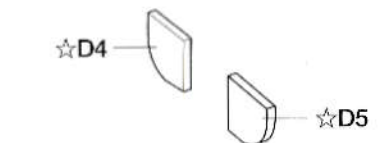
9

★飛行機格納庫用扉E30、E31は開閉どちらか選べます。
 ★Attach hangar doors (E30 and E31) in open or closed position.
 ★Die Hangar-Tore (E30 und E31) in offener oder geschlossener Stellung anbringen.
 ★Fixer les portes du hangar (E30 et E31) ouvertes ou fermées.



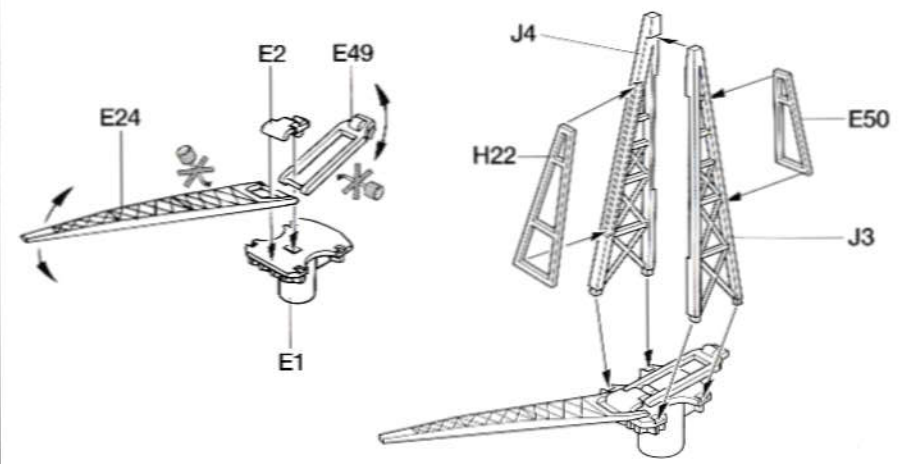
10

☆防水トビラD4、D5はⓍでカッターを取り付ける時は取り付けません。
 ☆Do not attach D4 and D5 when attaching cutter.
 ☆D4 und D5 nicht anbringen, wenn ein Kutter befestigt wird.
 ☆Ne pas fixer D4 et D5 si le canot est installé.



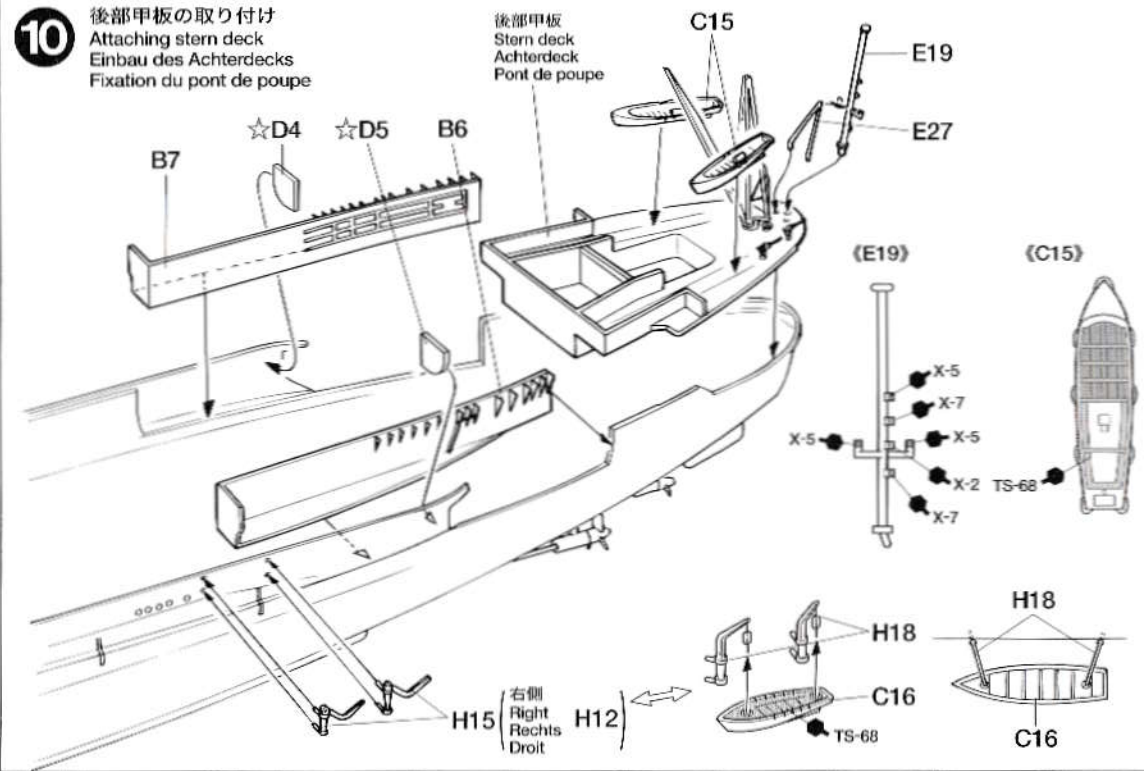
8

クレーンの組み立て
 Crane
 Kran
 Grue



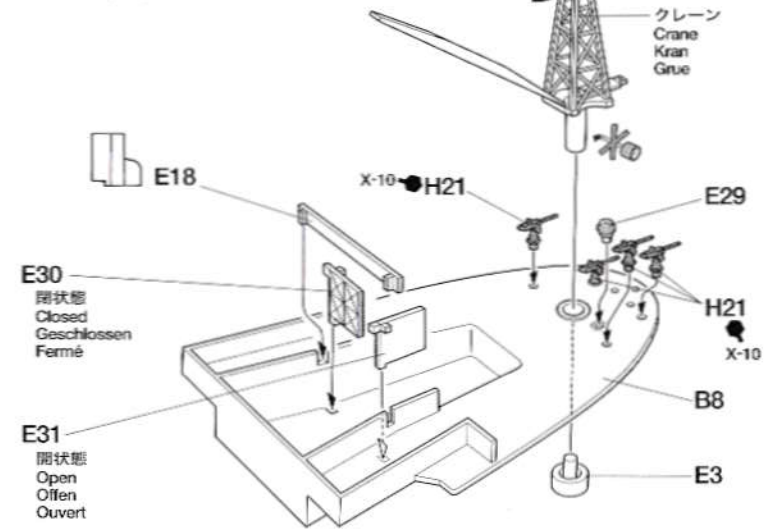
10

後部甲板の取り付け
 Attaching stern deck
 Einbau des Achterdecks
 Fixation du pont de poupe



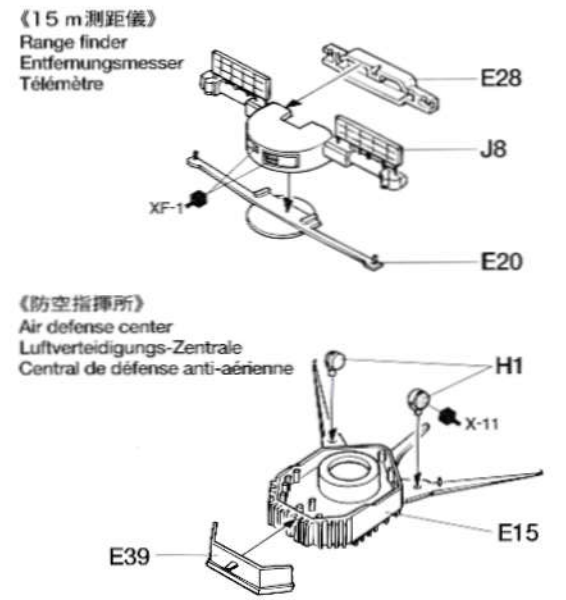
9

後部甲板の組み立て
 Stern deck
 Achterdeck
 Pont de poupe

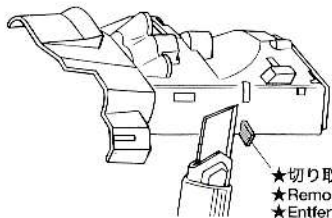


11

艦橋部品の組み立て
 Bridge parts
 Brücken-Teile
 Equipements de la superstructure



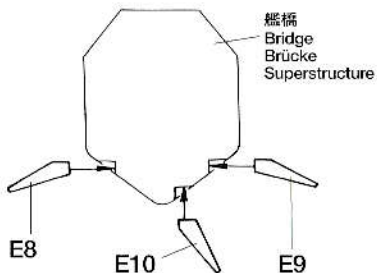
13



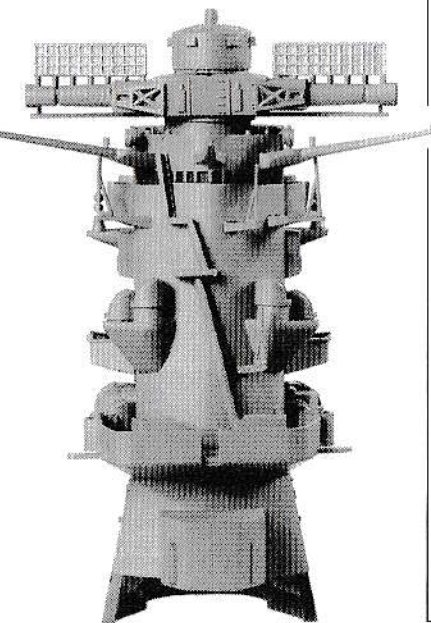
★切り取ります。
★Remove.
★Entfernen.
★Enlever.

17

《E8、E9、E10の取り付け》
Attaching E8, E9 and E10
Anbringung von E8, E9 und E10
Fixation de E8, E9 et E10

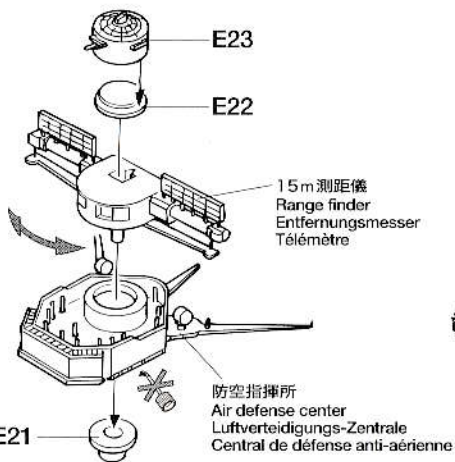


艦橋
Brücke
Brücke
Superstructure



12

15m測距儀の取り付け
Attaching range finder
Entfernungsmesser-Einbau
Fixation du télémètre

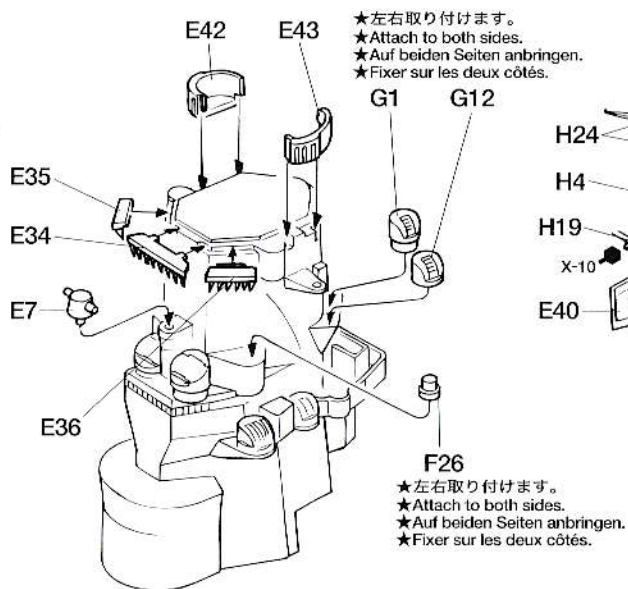


15m測距儀
Range finder
Entfernungsmesser
Télémètre

防空指揮所
Air defense center
Luftverteidigungs-Zentrale
Central de défense anti-aérienne

15

遮風板の取り付け
Attaching wind shielding panels
Anbringung der Windabweiser-Platten
Fixation des panneaux pare-vent

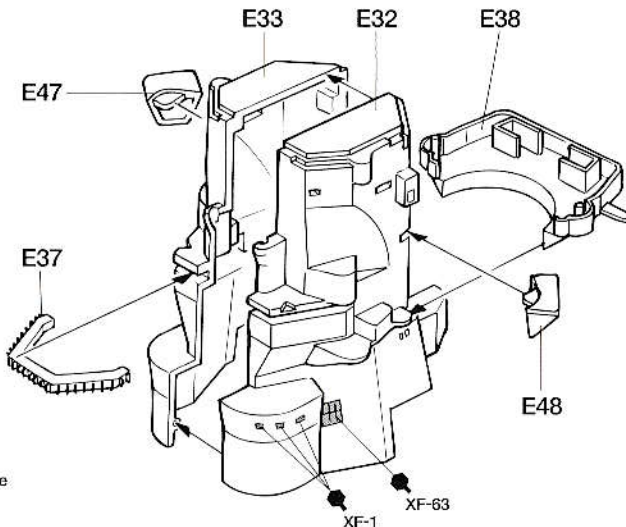


★左右取り付けます。
★Attach to both sides.
★Auf beiden Seiten anbringen.
★Fixer sur les deux côtés.

★左右取り付けます。
★Attach to both sides.
★Auf beiden Seiten anbringen.
★Fixer sur les deux côtés.

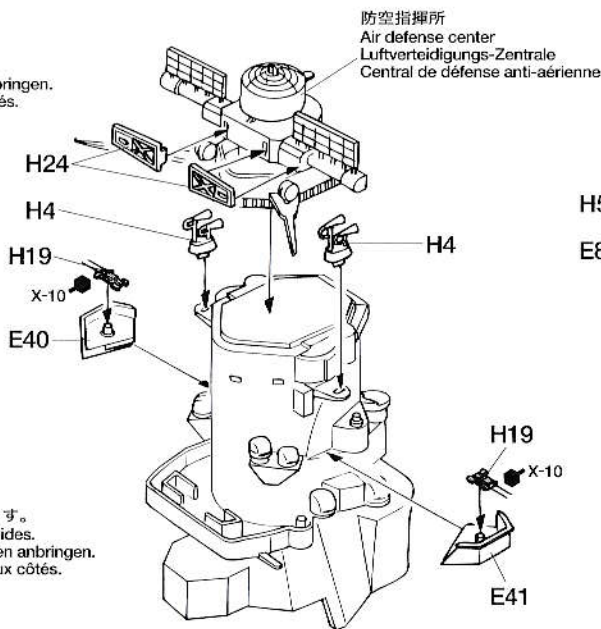
13

艦橋の組み立て
Bridge
Brücke
Superstructure



16

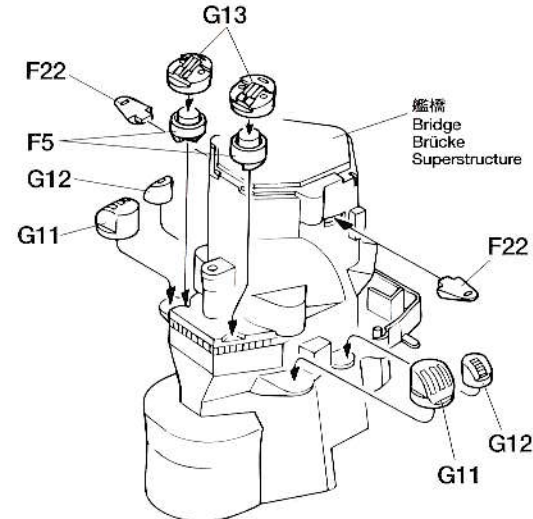
防空指揮所の取り付け
Attaching air defense center
Einbau der Luftverteidigungs-Zentrale
Fixation du central de défense anti-aérienne



防空指揮所
Air defense center
Luftverteidigungs-Zentrale
Central de défense anti-aérienne

14

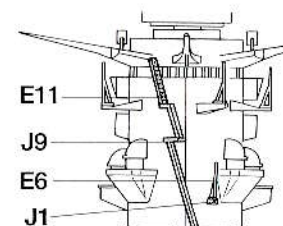
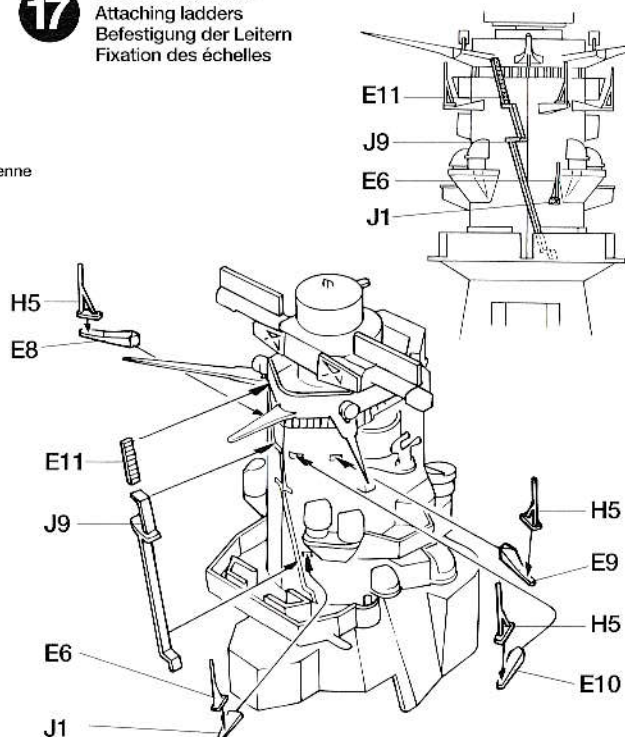
機銃射撃装置の取り付け
Attaching gun directors
Befestigung der Kanonen-Leiteinrichtung
Fixation des pointeurs de canons



艦橋
Brücke
Brücke
Superstructure

17

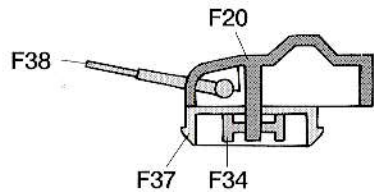
はしごの取り付け
Attaching ladders
Befestigung der Leitern
Fixation des échelles



19

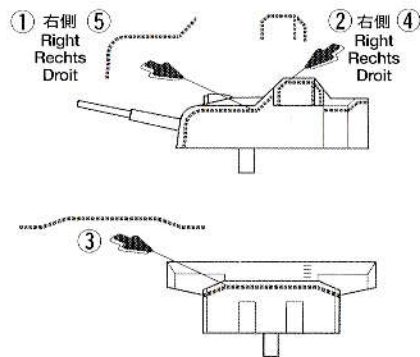
《副砲の組み立て》

15.5cm turret assembly
Zusammenbau des 15,5cm Turms
Assemblage de la tourelle de 15,5cm

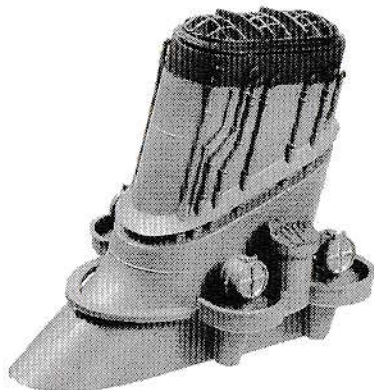


《副砲のマーキング》

Marking of 15.5cm turret
Verzierung des 15,5cm Turms
Marquages de la tourelle de 15,5cm

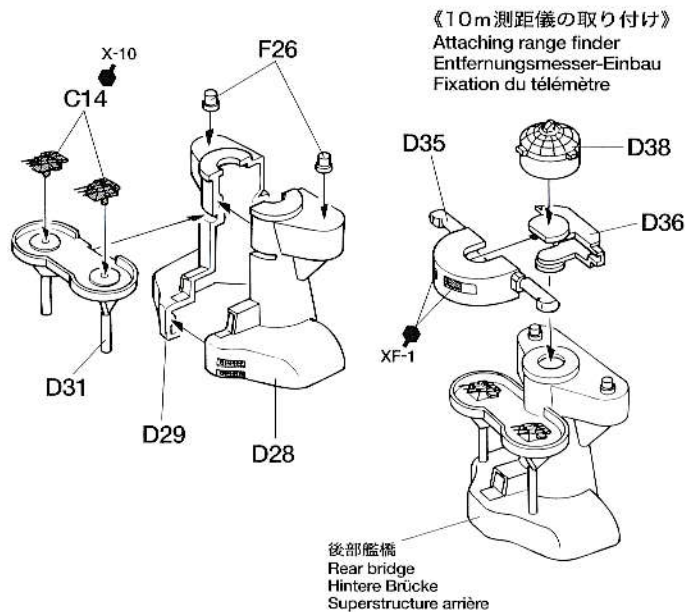


20



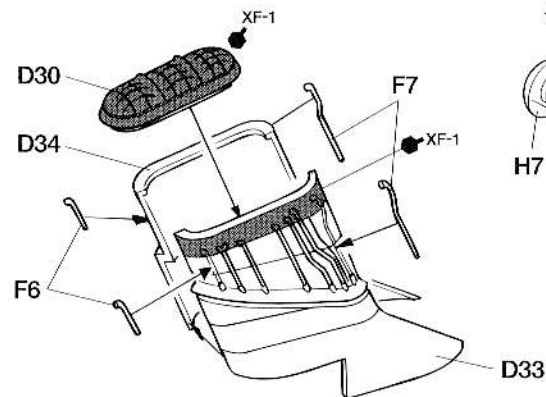
18

後部艦橋の組み立て
Rear bridge
Hintere Brücke
Superstructure arrière



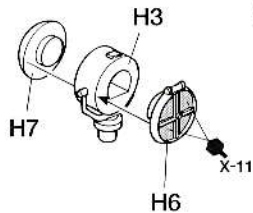
20

煙突の組み立て 1
Funnel 1
Schornstein 1
Cheminée 1



《150cm探照灯》
Search light
Suchscheinwerfer
Phare de recherche

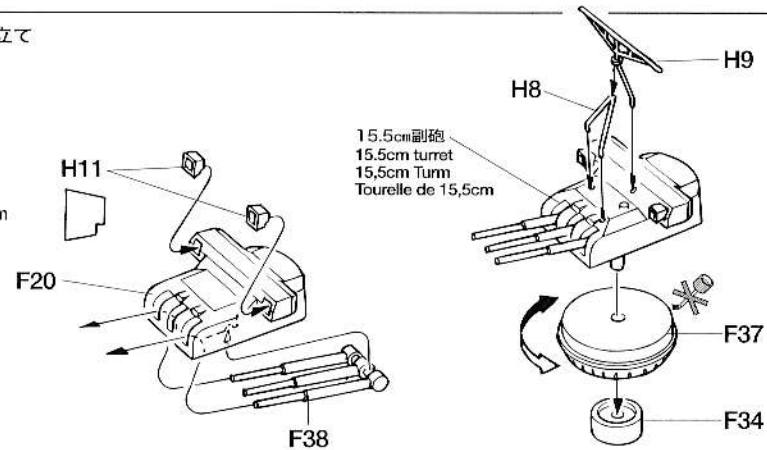
★4個作ります。
★Make 4.
★4 Satz anfertigen.
★Faire 4 jeux.



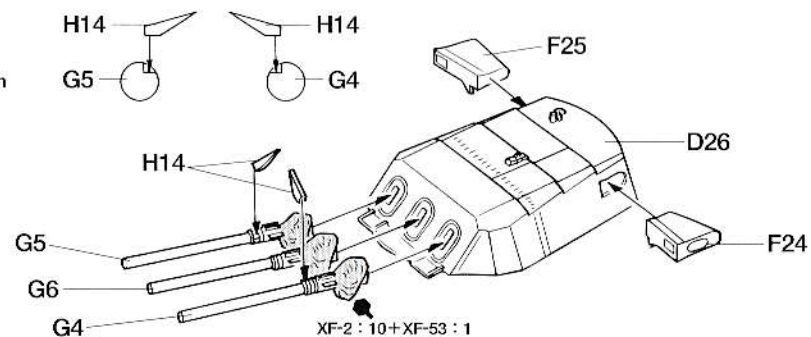
19

砲の組み立て
Turrets
Türme
Tourelles

《15.5cm副砲》
15.5cm turret
15,5cm Turm
Tourelle de 15,5cm



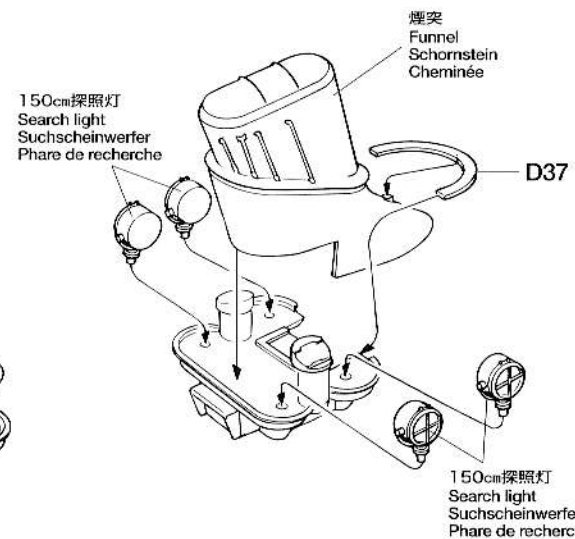
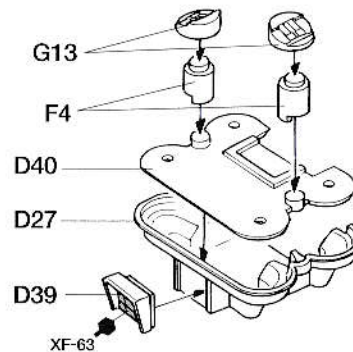
《46cm主砲》
46cm turret
46cm Turm
Tourelle de 46cm



21

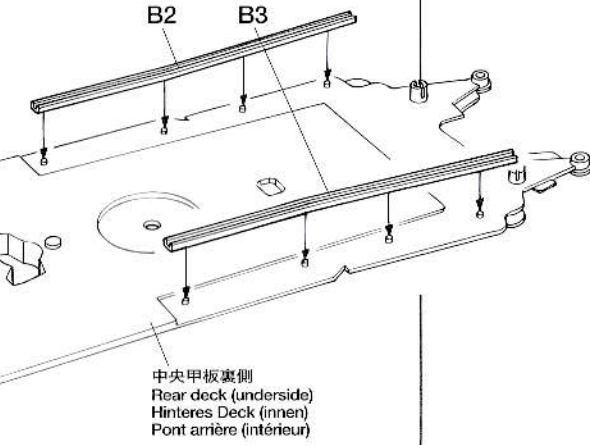
煙突の組み立て 2
Funnel 2
Schornstein 2
Cheminée 2

《探照灯甲板》
Search light deck
Suchscheinwerfer-Deck
Pont des phares de recherche

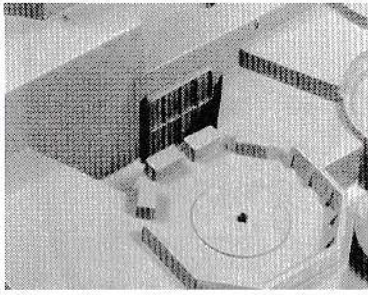


22

《ハンギングレールの取り付け》
 Attaching rails
 Einbau der Schienen
 Fixation des rails

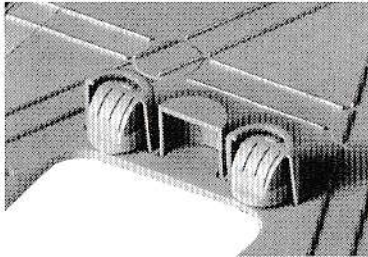


《F27の取り付け》
 Attaching F27
 Anbringung von F27
 Fixation de F27



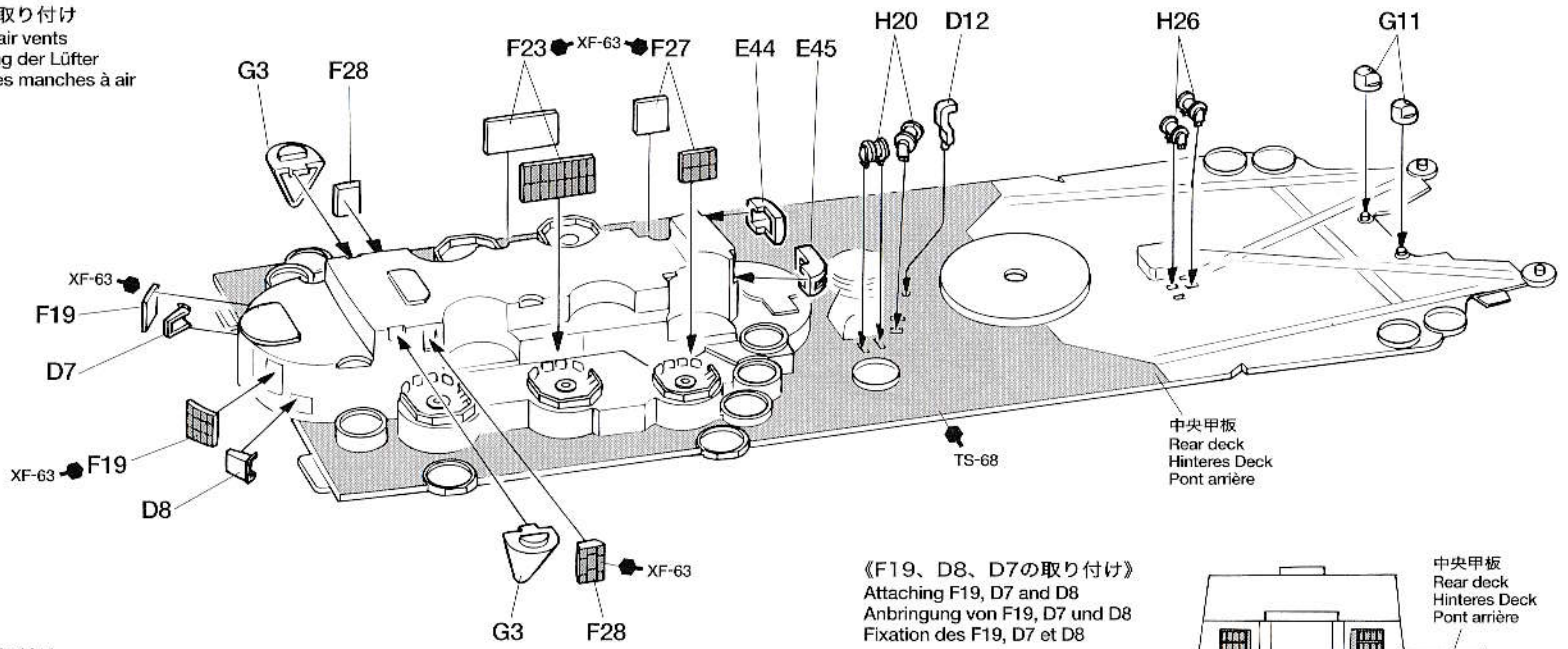
23

《F18, D16の取り付け》
 Attaching D16 and F18
 Anbringung von D16 und F18
 Fixation de D16 et F18



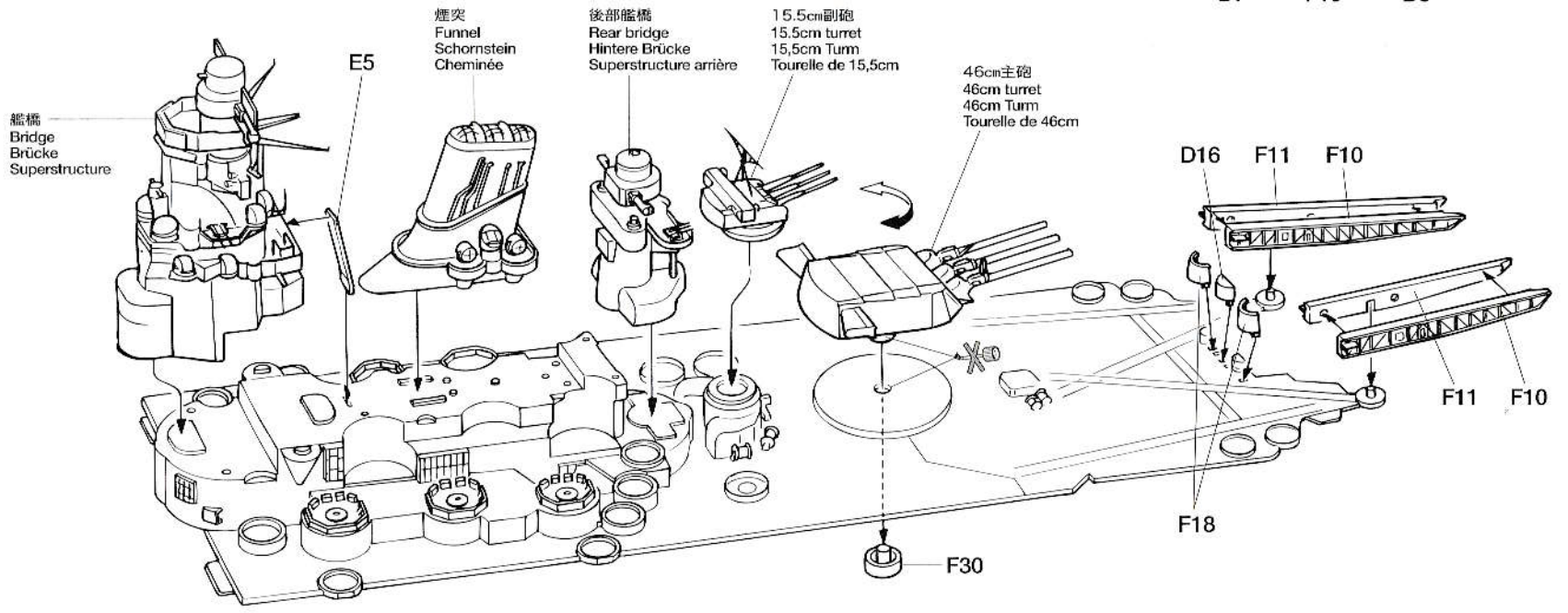
22

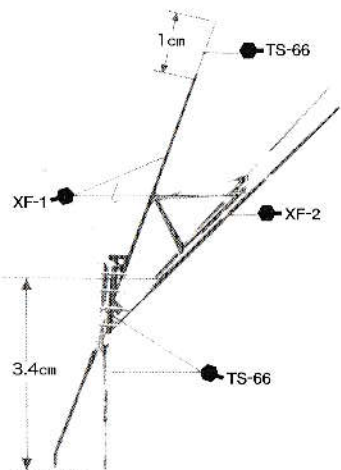
吸気口の取り付け
 Attaching air vents
 Befestigung der Lüfter
 Fixation des manches à air



23

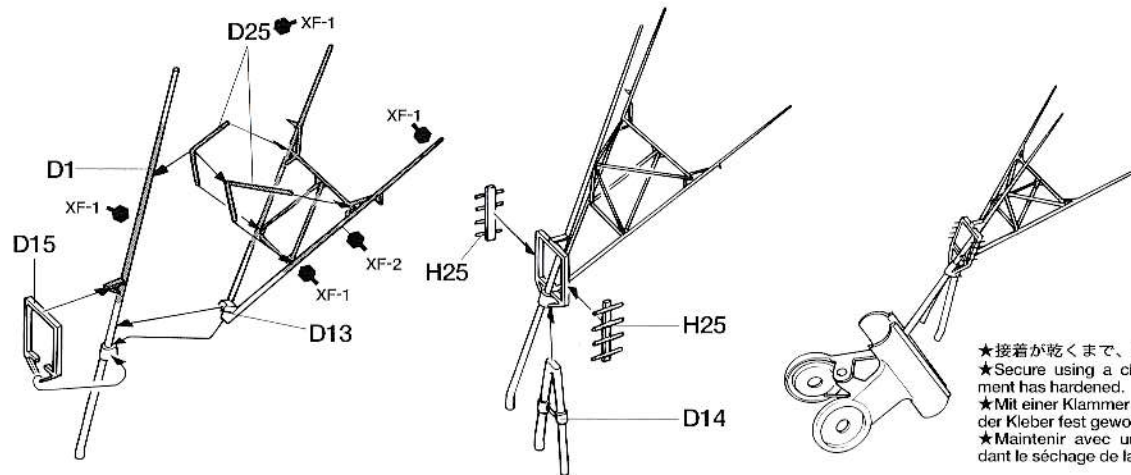
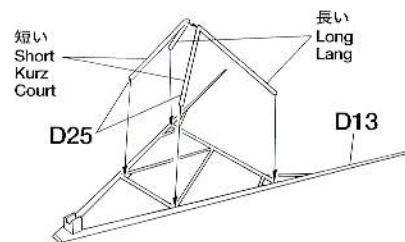
艦橋の取り付け
 Attaching bridge
 Brücken-Einbau
 Fixation de la superstructure



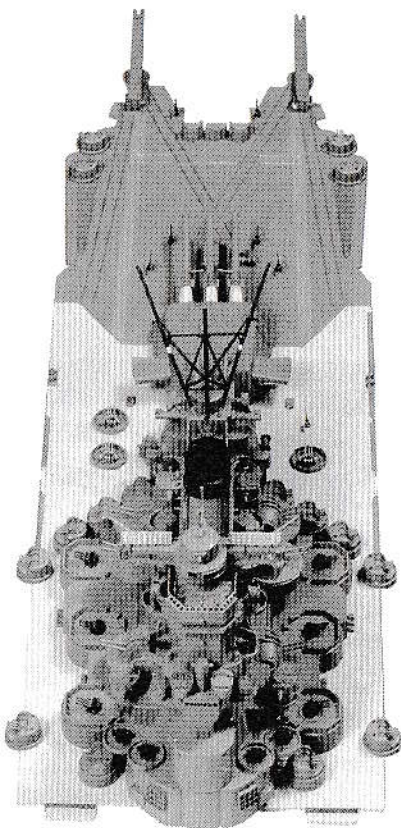


24 マストの組み立て Mast Mât

《D25》



- ★接着が乾くまで、固定します。
- ★Secure using a clip until cement has hardened.
- ★Mit einer Klammer sichern, bis der Kleber fest geworden ist.
- ★Maintenir avec un clip pendant le séchage de la colle.

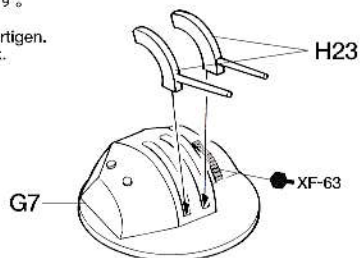


25 高角砲の組み立て High angle guns Kanonen mit großem Hubwinkel Canons à haute élévation

《12.7cm高角砲》

12.7cm high angle guns
12,7cm Kanonen mit großem Hubwinkel
Canons 12,7cm à haute élévation

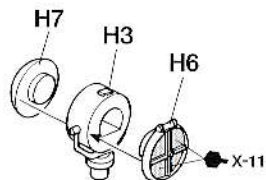
- ★6個作ります。
- ★Make 6.
- ★6 Satz anfertigen.
- ★Faire 6 jeux.



《150cm探照灯》

Search light
Suchscheinwerfer
Phare de recherche

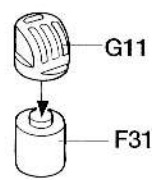
- ★2個作ります。
- ★Make 2.
- ★2 Satz anfertigen.
- ★Faire 2 jeux.



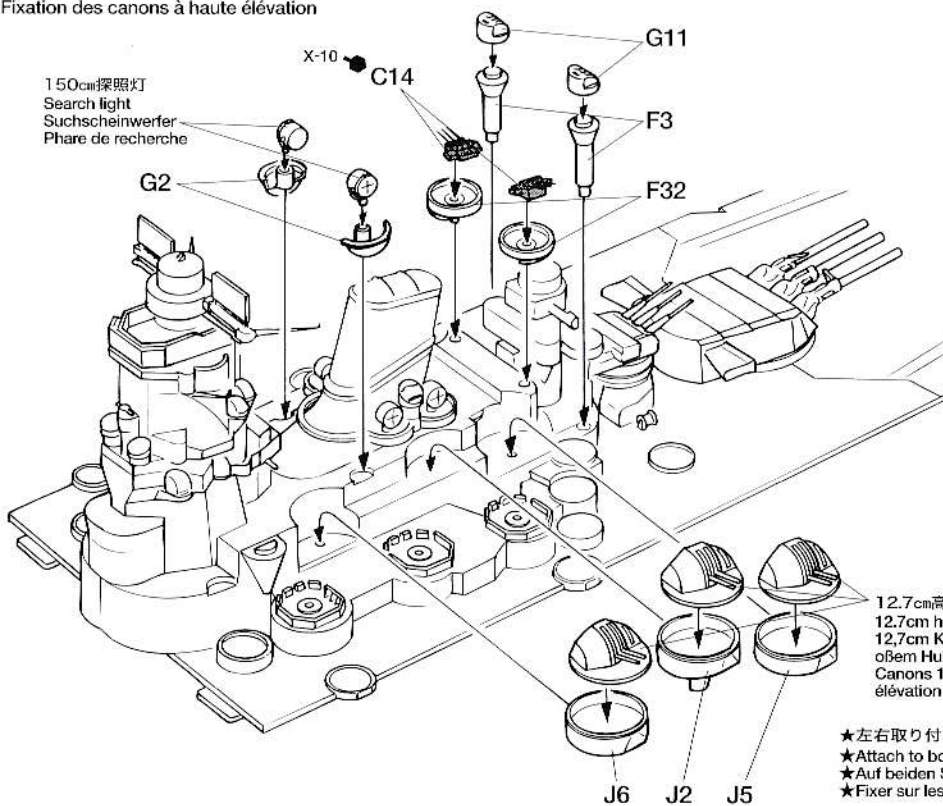
《機銃射撃装置》

Gun director
Kanonen-Leiteinrichtung
Pointeur de canon

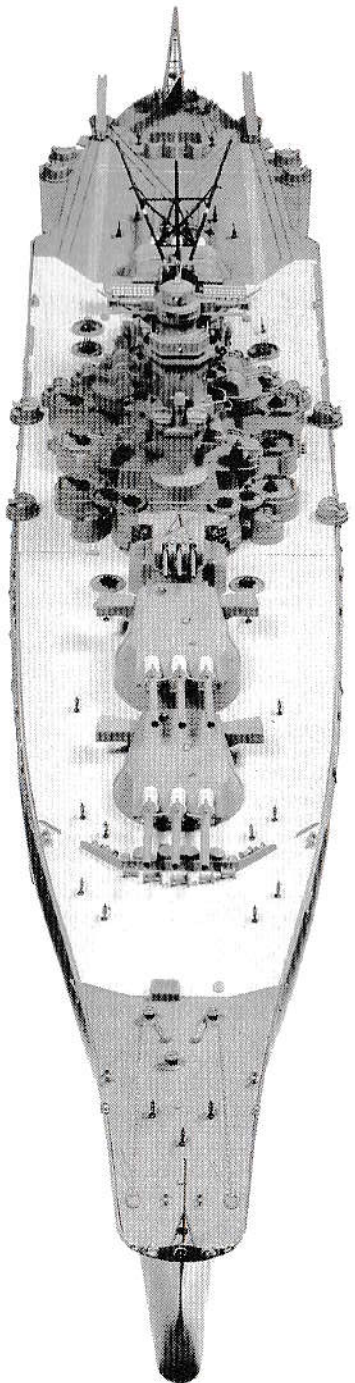
- ★2個作ります。
- ★Make 2.
- ★2 Satz anfertigen.
- ★Faire 2 jeux.



26 高角砲の取り付け Attaching high angle guns Einbau der Kanonen mit großem Hubwinkel Fixation des canons à haute élévation



- ★左右取り付けます。
- ★Attach to both sides.
- ★Auf beiden Seiten anbringen.
- ★Fixer sur les deux côtés.

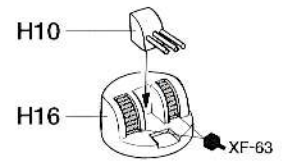
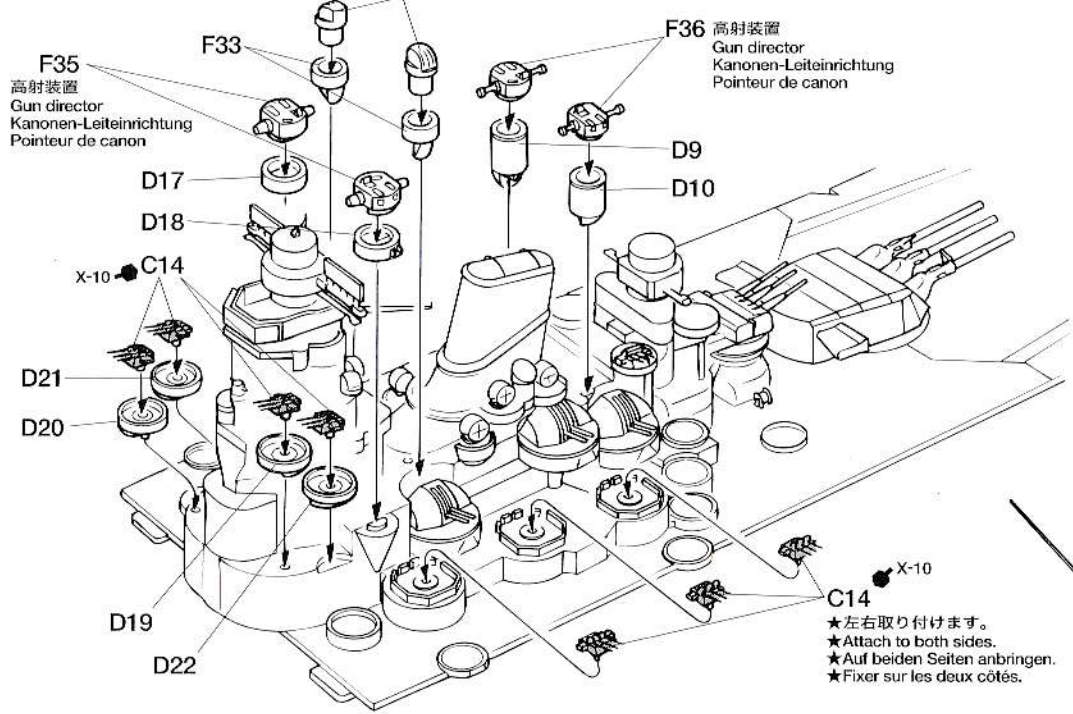


27 機銃の取り付け
Attaching triple guns
Einbau der Dreifach-Kanonen
Fixation des canons triples

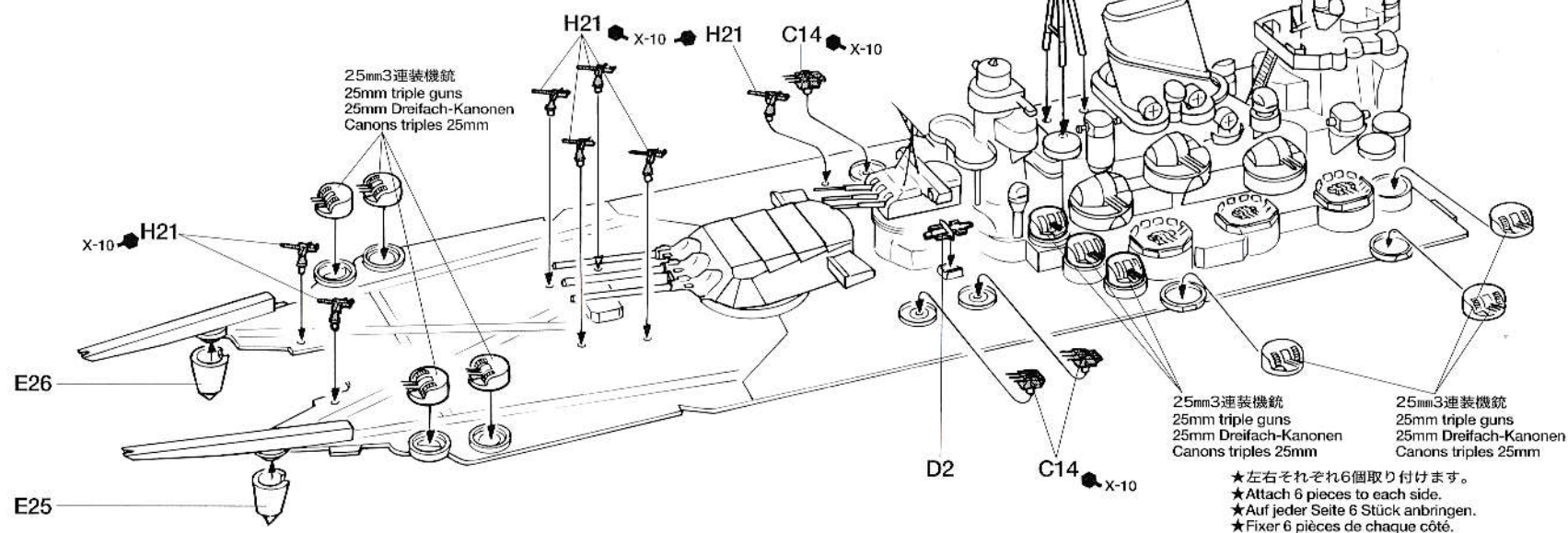
機銃射撃装置
Gun director
Kanonen-Leiteinrichtung
Pointeur de canon

《25mm3連装機銃》
25mm triple guns
25mm Dreifach-Kanonen
Canons triples 25mm

★16個作ります。
★Make 16.
★16 Satz anfertigen.
★Faire 16 jeux.



X-10 C14
★左右取り付けます。
★Attach to both sides.
★Auf beiden Seiten anbringen.
★Fixer sur les deux côtés.



25mm3連装機銃
25mm triple guns
25mm Dreifach-Kanonen
Canons triples 25mm

25mm3連装機銃
25mm triple guns
25mm Dreifach-Kanonen
Canons triples 25mm

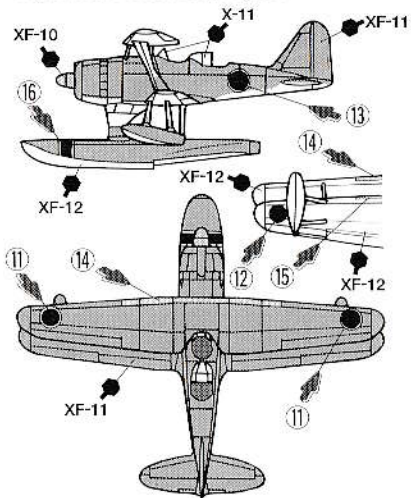
★左右それぞれ6個取り付けます。
★Attach 6 pieces to each side.
★Auf jeder Seite 6 Stück anbringen.
★Fixer 6 pièces de chaque côté.

《艦載機の塗装とマーキング》

Marking of planes
Verzierung der Flugzeuge
Marquages des avions

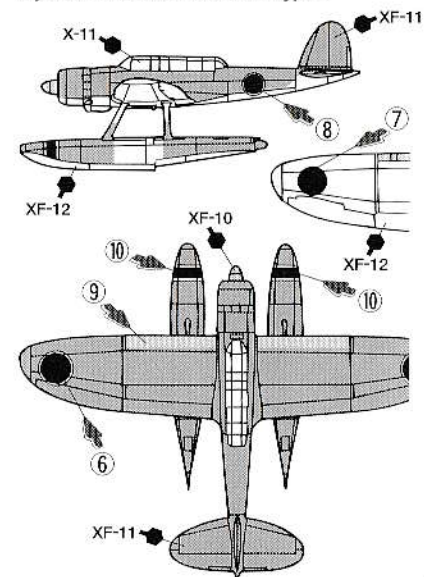
《零式水上観測機》

Type 0 observation floatplane
Typ 0 Beobachter-Wasserflugzeug
Hydravion d'observation Type 0

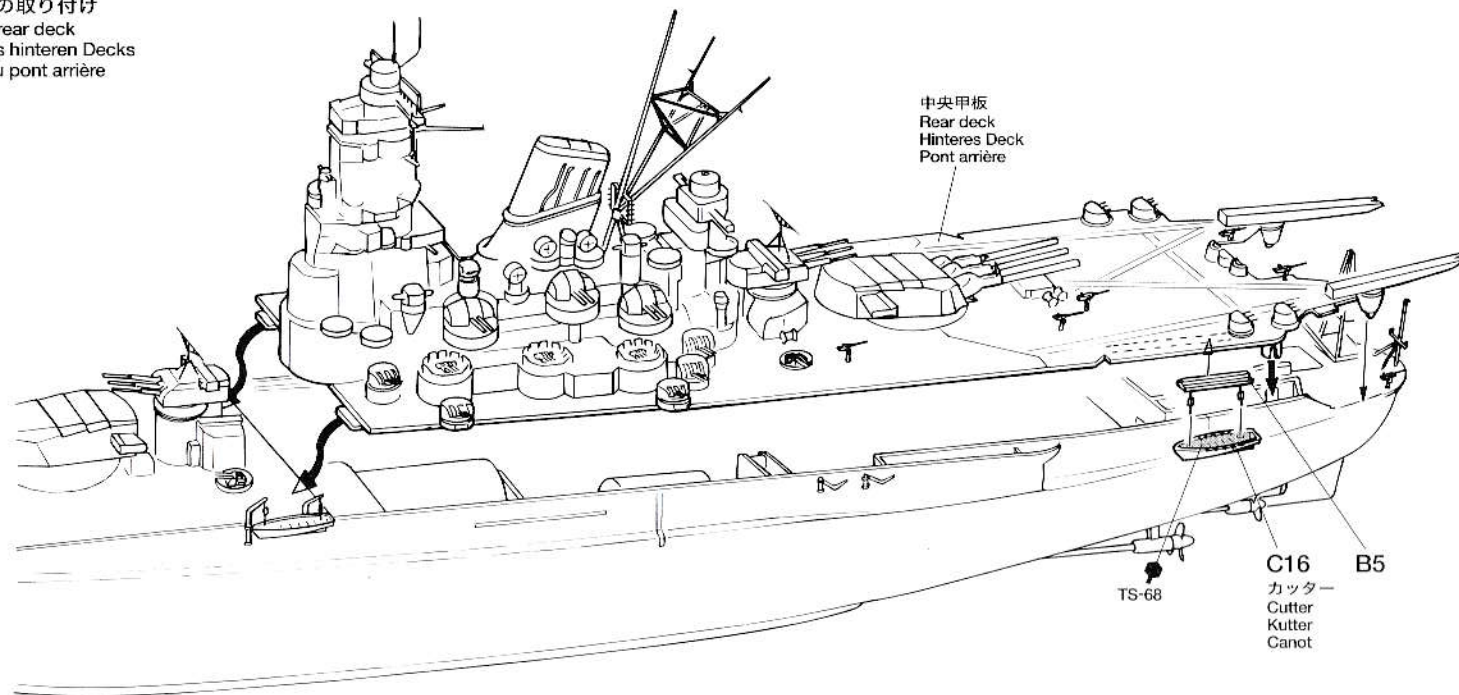


《零式水上偵察機》

Type 0 reconnaissance floatplane
Typ 0 Aufklärungs-Wasserflugzeug
Hydravion de reconnaissance Type 0



中央甲板の取り付け
Attaching rear deck
Einbau des hinteren Decks
Fixation du pont arrière

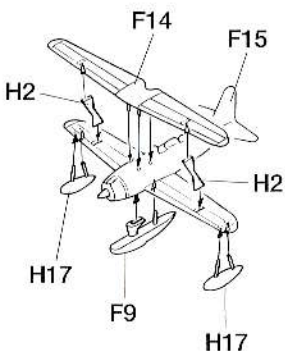


艦載機の組み立てと取り付け
Attaching planes
Befestigung der Flugzeuge
Fixation des avions

《零式水上観測機》

Type 0 observation floatplane
Typ 0 Beobachter-Wasserflugzeug
Hydravion d'observation Type 0

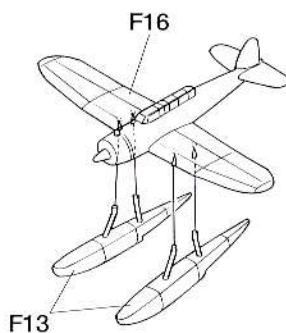
★2個作ります。
★Make 2.
★2 Satz anfertigen.
★Faire 2 jeux.



《零式水上偵察機》

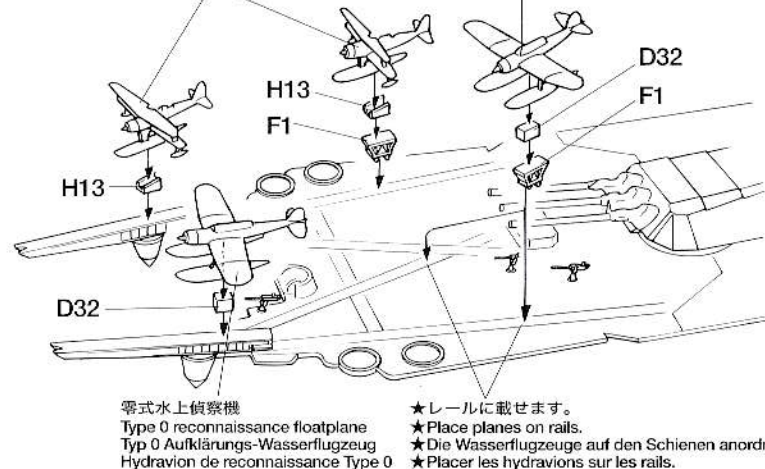
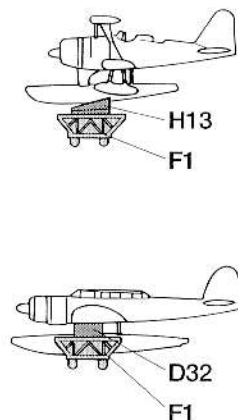
Type 0 reconnaissance floatplane
Typ 0 Aufklärungs-Wasserflugzeug
Hydravion de reconnaissance Type 0

★2個作ります。
★Make 2.
★2 Satz anfertigen.
★Faire 2 jeux.



零式水上観測機
Type 0 observation floatplane
Typ 0 Beobachter-Wasserflugzeug
Hydravion d'observation Type 0

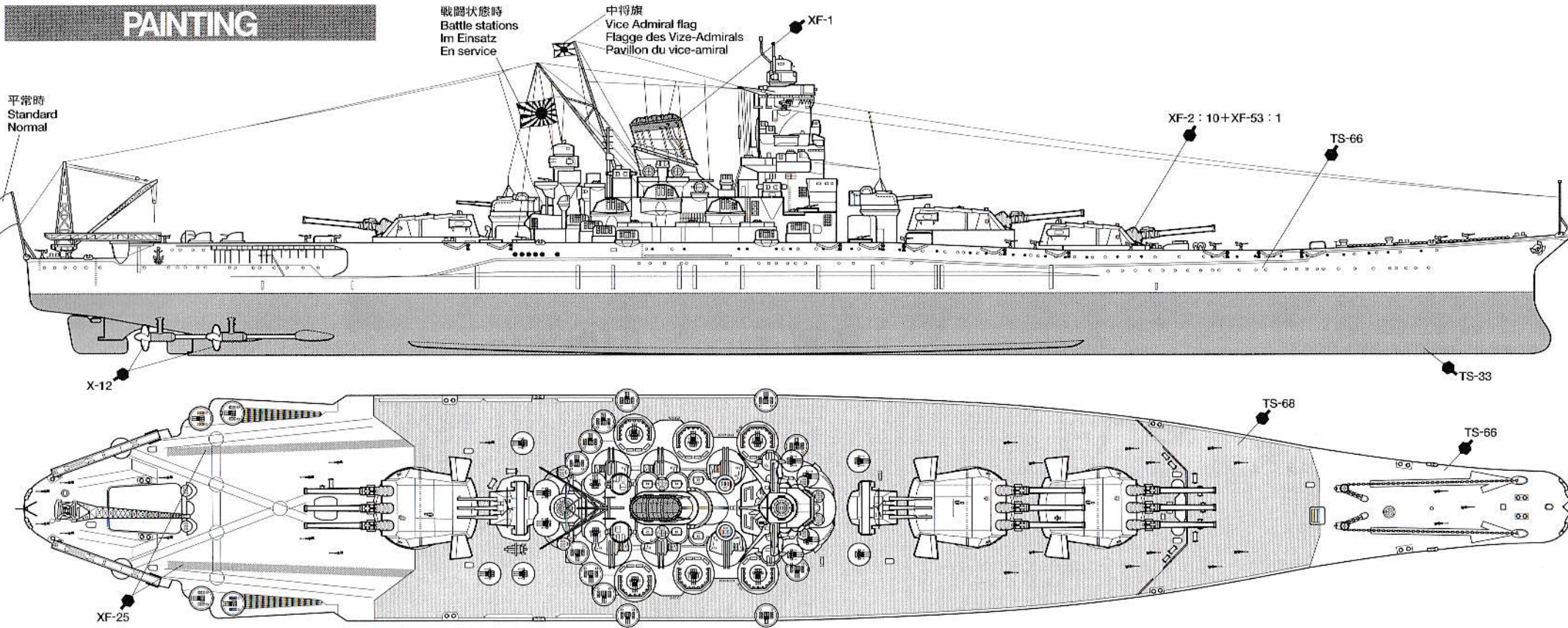
零式水上偵察機
Type 0 reconnaissance floatplane
Typ 0 Aufklärungs-Wasserflugzeug
Hydravion de reconnaissance Type 0



零式水上偵察機
Type 0 reconnaissance floatplane
Typ 0 Aufklärungs-Wasserflugzeug
Hydravion de reconnaissance Type 0

★レールに載せます。
★Place planes on rails.
★Die Wasserflugzeuge auf den Schienen anordnen.
★Placer les hydravions sur les rails.

PAINING

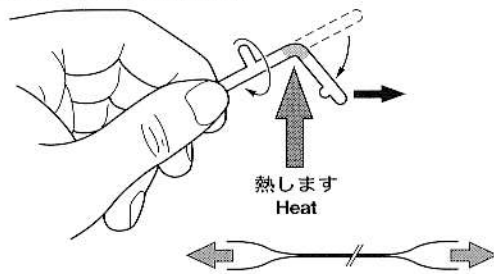


《アンテナ線を張る》
アンテナ線や旗用ワイヤーを張るとモデルの見ごたえをいっそう高めることができます。まずランナー（部品が付いていた枝部分）を適当な長さに切り、熱してやわらかくしたら両端をすばやく引っ張り、糸を作ります。2面図などを参考にして接着部分より糸を少し長めに切り、マストなどに接着します。余分な部分は接着剤が乾いてから切るのがコツです。また、これらの作業は塗装をした後に行います。

Antenna
Extra details such as antenna and flag wires will enhance reality of the model. To make a thin wire, cut off a small piece of sprue. Heat the piece in the middle and stretch both sides until it becomes a thin thread. Cut the thread a bit longer than required length referring to the side view, and then cement to masts. Cut off excess portion after cement has fully dried. Attach wires after painting.

Antennen
Zusätzliche Details, wie etwa Antennen- und Fahnen-Kabel, erhöhen die Naturgetreue des Modells. Zur Herstellung eines dünnen Drahtes ein Stück vom Spritzling abschneiden. Das Stück in der Mitte erhitzen und die Enden auseinander-

ziehen, so dass sich ein dünner Faden ergibt. Den Faden entsprechend der Seitenansicht etwas länger lassen und an den Mast kleben. Den Überstand abschneiden, nachdem der Klebstoff getrocknet ist. Die Antennen sollten nach dem Bemalen angebracht werden.



Antennen
L'ajout personnel de détails tels des antennes et des câbles de pavillons permet d'accroître le réalisme du modèle. Pour faire un câble, utiliser la technique du plastique étiré. Chauffer en son milieu un morceau de grappe et tirer sur les deux extrémités jusqu'à ce qu'il devienne un fil du diamètre sou-

haité. En se reportant à la vue de profil, couper une longueur de fil plus grande que nécessaire et la coller sur les mâts. Découper les portions excédentaires après séchage de la colle. Fixer les câbles après peinture.

《旗の取り付け》
軍艦旗シートに印刷された旗をていねいに切りとり、2面図を参考にしてとりつけてください。また各旗は異なった状態のものが2種類ずつ入っています。好みの状態を選んでください。

Attaching flags
A printed sheet with flags coming in choice of two shapes is included. Cut out and attach flags as shown in the illustration.

Anbringung der Flaggen
Es ist ein Ausdruck der zur Wahl stehenden Flaggen in zwei Formen beigelegt. Schneiden Sie die Flaggen aus und bringen Sie diese wie abgebildet an.

Fixation des drapeaux
Les drapeaux sont imprimés un feuillet. Le choix est proposé entre deux formes. Découper et fixer les drapeaux comme montré sur l'illustration.

《中將旗》
Vice Admiral flag
Flagge des Vize-Admirals
Pavillon du vice-amiral

旗用ワイヤー：③または⑤
③ or ⑤
③ oder ⑤
③ ou ⑤



《軍艦旗》
Ensign
Nationalitäts-Flagge
Enseigne

軍艦旗は平常時と戦闘状態では旗の大きさと取り付け位置が異なります。

戦闘状態時（旗用ワイヤー）：①または④
Battle stations
Im Einsatz
En service
① or ④
① oder ④
① ou ④



平常時（後部旗用ポール）：②または①
Standard
Normal
Normal
② or ①
② oder ①
② ou ①

部品請求について

★部品をなくしたり、こわした方は、このステッカーが貼られたカスタマーサービス取次店のご注文が便利です。また、当社カスタマーサービスに直接ご注文する場合は、下記の方法があります。詳しくは当社カスタマーサービスまでお問い合わせください。



《その他のご請求方法》

① 《現金書留のご利用法》

下のカードにあなたの氏名、住所、郵便番号、電話番号をしっかりと記入してください。必要部品を○でかこみ、代金を現金書留または定額小為替(100円以下は切手可)と一緒に申し送りください。

② 《郵便振替のご利用法》

郵便局の払込用紙の通信欄に下のカードを参考にITEM番号、スケール、製品名、部品名、数量を必ずご記入ください。振込人住所欄には電話番号もお書きいただき、口座番号・00810-9-1118、加入者名・田宮模型でお振込ください。

③ 《電話でのご注文もご利用いただけます》

パーツ代金に加えて代引き手数料(315円)をご負担いただければ、代金着払いにより電話でのご注文も承ります。

《お問い合わせ番号》 静岡 054-283-0003

東京 03-3899-3765 (静岡へ自動転送)

営業時間/平日(月～金曜日) ▶ 8:00-20:00

土、日、祝日 ▶ 8:00-17:00

JAPANESE BATTLESHIP MUSASHI 武蔵 1:350



船体	1,820円	0117010
甲板(前部、中央)	620円	0447027
Aパーツ(1枚)	370円	0007060
Bパーツ	470円	0607058
Cパーツ	470円	0607059
Dパーツ	470円	0607060
Eパーツ	470円	0607061
Fパーツ(1枚)	370円	0607062
Gパーツ(1枚)	370円	0607063
Hパーツ(1枚)	370円	0007067
Jパーツ	370円	9117005
マーク	220円	1407003
軍艦旗シート	120円	1407025
説明図	320円	1057240

For Japanese use only!

ITEM 78016

住所

電話 () - -

氏名

★パーツの価格は予告なく変更となる場合があります。



PARTS

G PARTS ×2 0607063

F PARTS ×2 0607062

J PARTS ×1 9117005

H PARTS ×3 0007067

AFTER MARKET SERVICE CARD
When purchasing Tamiya replacement parts, please take or send this form to your local Tamiya dealer so that the parts required can be correctly identified and supplied. Please note that specifications, availability and price are subject to change without notice.

Parts code	ITEM 78016	
0117010	Hull	0607072
0447027	Deck (Front & Rear)	0607063
0007060	A Parts (1 pc.)	0007067
0607058	B Parts	9117005
0607059	C Parts	1407003
0607060	D Parts	1407025
0607061	E Parts	1057240
		F Parts (1 pc.)
		G Parts (1 pc.)
		H Parts (1 pc.)
		J Parts
		Decal
		Battle Flag Sheet
		Instructions

船体.....×1
Hull
Rumpf
Coque

前部甲板.....×1
Front deck
Vorderes Deck
Pont avant

中央甲板.....×1
Rear deck
Hinteres Deck
Pont arrière

軍艦旗シート.....×1
Battle flag sheet
Fahnenblatt
Feuillet de drapeaux

マーク.....×1
Decal
Abziehbild
Décalcomanie

A PARTS ×2 0007060

B PARTS ×1 0607058

C PARTS ×1 0607059

不要部品
Not used
Nicht verwenden
Non utilisées

D PARTS ×1 0607060

E PARTS ×1 0607061